

2023 作業療法学科 昼間主シラバス

科目名		文学		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生		単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	比嘉 弘美		科目副担当	0
目 標	総合	多くの文学作品に触れ、鑑賞することを通して人生をより豊かに生きる一助とする		
	行動	①各回の授業における様々な文章を読解し、文章力を養うための国語学習の基礎を確認する。②生きた言葉や地域の言葉を学習し、コミュニケーション力を高め、表現を楽しむことができる。		
講 義 計 画	第1回	インタビュー・ショートスピーチによる他己紹介		
	第2回	漢字と語彙①		
	第3回	句読点・接続表現 練習問題		
	第4回	接続表現 練習問題・語句練習		
	第5回	漢字と語彙②		
	第6回	日常よく使用する漢字・間違いやすい言葉について		
	第7回	敬語表現の基礎知識		
	第8回	漢字と語彙③		
	第9回	沖縄方言の概説①		
	第10回	沖縄方言の概説②		
	第11回	沖縄方言の概説③		
	第12回	1分間スピーチのテーマを決め、構成を考える		
	第13回	スピーチ原稿の下書き		
	第14回	スピーチ実践		
	第15回	まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		講義		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス		対人援助職として重要な言葉の使い方を学びます。基礎知識として実習までに身につけるように努めてください。		

科目名		生物学		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生		単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	宮里 幸利		科目副担当	0
目標	総合	生物の基本的な原理・法則への理解を深め、専門への深化につなげる。		
	行動	各回の講義テーマについて、理解できる。		
講義計画		ガイダンス・生物の共通性 ～細胞・DNA・ATP・恒常性～		
		生物の多様性と系統分類		
		細胞の多様性と共通性 ～細胞の種類・大きさ・構造～		
		顕微鏡		
		代謝と生物のエネルギー ～同化・異化・有機物・無機物～		
		ATPの構造とエネルギー、酵素の種類と働き		
		光合成のしくみ ～4つの反応～		
		呼吸の仕組み ～解糖系・クエン酸回路・電子伝達系～		
		血液と組織と働き		
		メンデル遺伝と血液型の遺伝		
		循環系とその種類 ～心臓のつくり、血管系、リンパ系～		
		野外観察・実習		
		復習①		
		復習②		
		まとめ		
教科書		適宜配布 標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論（医学書院）		
授業方法		講義		
評定方法		筆記試験		
履修アドバイス		配布資料を基に進めていきます。毎回教科書も持参すること。		

科目名		情報処理		
履修時期		作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位／30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		鈴木 啓	科目副担当	0
目 標	総合	在学中の専門課程や卒業後の就職先においてコンピュータを活用するためのWord、Excel、PowerPointの基礎を習得することができる。基本的な研究方法論・基本の統計法を理解し、研究計画を立てられるようになること		
	行動	①作業療法の専門職の研究・発展に必要な研究基礎知識を習得する②作業療法効果の明示方法を理解する③課題物作成に必要なMicrosoft Officeの基本的な操作方法を理解する④文献レビューを実施し、研究論文を読み解くことができる⑤Microsoft officeを使い、情報を視覚化し、伝える技術を身に着ける		
講 義 計 画	第1回	タブレット操作方法①（グーグル機能について）		
	第2回	タブレット操作方法②（Goodnoteについて）		
	第3回	Microsoft Office ～ w o r d の使い方について①～		
	第4回	Microsoft Office ～ w o r d の使い方について②～		
	第5回	Microsoft Office ～ Excel の使い方について①～		
	第6回	Microsoft Office ～ Excel の使い方について②～		
	第7回	Microsoft Office ～ Power Point の使い方について～		
	第8回	研究とは？ 気になること・疑問に思うことは何？		
	第9回	文献検索とレビューについて 先行研究の探し方		
	第10回	グループディスカッション		
	第11回	作業療法の効果判定について 統計のお話し①（基本統計）		
	第12回	作業療法の効果判定について 統計のお話し②（群間比較）		
	第13回	作業療法の効果判定について 統計のお話し③（多重比較）		
	第14回	作業療法の効果判定について 統計のお話し④（相関関係）		
	第15回	グループ発表		
教科書		適宜配布 標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論（医学書院）		
授業方法		講義、演習、グループワーク		
評定方法		レポート課題・成果物 80%、講義受講状況20%		
履修 アドバイス		PC操作に慣れ、情報の整理ができるよう日頃からタブレットPCに触れていきましょう		

年度・期	R5年度 前期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	医学英語
担当	吉田 恭子
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

リハビリテーション・作業療法場面で使用する医学英単語を理解し、簡単な表現を理解し活用することができる。

It can understand medical English words used in rehabilitation and occupational therapy situations, and can use simple expressions.

【SBOs】

<認知領域(知識)>

①医療現場で、使用する英単語、表現を理解する

It can understand medical English words used in rehabilitation and occupational therapy situations

<情意領域(習慣・態度)>

①英語を学ぶことを通して世界のリハビリテーション、作業療法に関心を持つことができる。

You can be interested in World rehabilitation and occupational therapy through learning medical English

②リハビリテーションの現場でよく用いる英語表現の使用の習慣化

Make it habit to use English expressions often used in rehabilitation

<技能領域(技術)>

①興味・関心がある医学英語資料を調べ、グループでパワーポイントを用い行える。

you can research something medical English materials of your interest and have presentation using PowerPoint

②医療現場で、使用する英単語、表現を理解し、使えるようになる

Use and Understand English words and expressions used in medical field

●学習方略(講義計画)

	(第1回)	Self-introduction, progress confirmation, confirmation test
	(第2回)	Variety medical courses / Medical English words Name of body part Examination (check your English level)
	(第3回)	Check Medical English words (Mini test) ① Posture and position / Plane and direction
	(第4回)	Range of motion (ROM)
	(第5回)	Check Medical English words (Mini test) ②③ (断面方向・ROM) The structure of the human body (The skeletal muscular nervous System) ①
	(第6回)	The structure of the human body (The skeletal muscular nervous System) ②
	(第7回)	Check Medical English words (Mini test) ④⑤ (骨・筋) Disease, Disorder, Pathological condition ①
	(第8回)	Disease, Disorder, Pathological condition ②
	(第9回)	Medical abbreviations ①
	(第10回)	Medical abbreviations ②
	(第11回)	Check Medical English words (Mini test) ⑧⑨ (外来語) Global medical and rehabilitation field and current status
	(第12回)	Explain how to make a presentation Prepare presentation (each groups)
	(第13回)	generalization Check Medical English words (Mini test) ⑩⑪ (病名・福祉機器) Final Report
	(第14回)	Presentation by group ①
	(第15回)	Presentation by group ② Check Medical English words (Mini test) ⑩ (多職種) generalization

年度・期	R5年度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	医学英語
担当	吉田 恭子
単位数	2単位
●評価	
MINI Examination①~⑩(35%) Final Report & Presentation with English (25%) term-end exam (40%)	
●教育資源(テキスト、その他)	
Distribution prints / Movies (Title undecided) / Dictionary	
●注意点 その他	
※講義日程は進行表で確認してください 欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容・小テスト範囲などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。 原則、小テストの再試験・再受験はありません。	

科目名		心理学		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生		単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	宮城千賀子		科目副担当	0
目 標	総合	人の心の機能について知る		
	行動	1. 心の機能について説明できる 2. 心の発達について説明できる 3. 心理検査の種類と概要を説明できる		
講 義 計 画	第1回	心理学とは		
	第2回	知覚の心理学Ⅰ		
	第3回	知覚の心理学Ⅱ		
	第4回	記憶の心理学Ⅰ		
	第5回	記憶の心理学Ⅱ		
	第6回	学習の心理学Ⅰ		
	第7回	学習の心理学Ⅱ		
	第8回	発達の心理学Ⅰ		
	第9回	発達の心理学Ⅱ		
	第10回	青年期の心理Ⅰ		
	第11回	青年期の心理Ⅱ		
	第12回	性格の心理学		
	第13回	社会心理学Ⅰ		
	第14回	社会心理学Ⅱ		
	第15回	総合まとめ		
教科書		イラストレート心理学入門		
授業方法		講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	保健体育 I
担当	瑞慶覧 健
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】 体育の理論と実技を知る 【SBOs】 ①運動負荷後の身体の変化に気付く ②スポーツレクリエーションの種類を知る
--

●習方略(講義計画)

(第1回)	オリエンテーション 自己紹介 スポーツアンケート作成 体育概要・計画・認定・注意事項
(第2回)	トレーニングマシン名称と動作解析
(第3回)	グランドゴルフ 予選ラウンド8H2ラウンド
(第4回)	グランドゴルフ 決勝ラウンド 結果報告
(第5回)	ソフトバレーボール アンダーオーバーパスの練習 レシーブの仕方
(第6回)	ソフトバレーボール リーグ戦 3セットマッチ
(第7回)	バレーボール チーム分け トーナメント式
(第8回)	バレーボール スキルテスト オーバー・アンダートス
(第9回)	バドミントン スマッシュとクリア ネット際のヘアピン
(第10回)	バドミントン ダブルス 15点2セットマッチ
(第11回)	バスケットボール スクエアパス、シュート練習
(第12回)	バスケットボール ルール説明、チーム分け、ゲーム
(第13回)	トレーニング基本原則 筋肉の構造 伸張反射について
(第14回)	ゴルフ ゴルフスイングにおけるメカニズムと「てこの原理」
(第15回)	まとめ

●評価

・競技成績 ・期末試験

●教育資源(テキスト、その他)

【教科書】 【参考文献】

●注意点 その他

--

年度・期	2023年度 前期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	実践コミュニケーション
担当	梶原利彦
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

「人と関わることは楽しい」と思うことができる。
「人間関係を通じて、自分が成長できた」と思えるコミュニケーションが取れる。
心と心の通じ合いによる、暖かな人間理解を目指す

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①社会人として必要なコミュニケーションスキルについて理解することができる
- ②自己理解を深め、自身のコミュニケーションの特徴に気づく
- ③良質なコミュニケーションがもたらす円滑な人間関係が、医療従事者として必要なことを理解する

<情意領域(習慣・態度)>

- ①自分の意見や考えを持ち、それらを伝えることができる
- ②様々な意見や考えに対して、柔軟に対応する姿勢を持つ
- ③社会的マナーを基礎として、医療従事者としてのコミュニケーションへ発展させる土台を作る

<技能領域(技術)>

- ①自分を理解し、自己肯定感を持つ
- ②対話のためのスキルアップ(話す力・聞く力)
- ③標準的なスキルをもとに、TPOに応じた対応を考えることができる

●学習方略(講義計画)

- オリエンテーション コミュニケーションとは？
- (第1回)
- 自己理解を深める
- (第2回)
- コミュニケーション力を高める(非言語コミュニケーション)
- (第3回)
- コミュニケーション力を高める(言語コミュニケーション)
- (第4回)
- コミュニケーション力を高める(聞く力)
- (第5回)
- コミュニケーション力を高める(実践・面接)
- (第6回)
- 対人関係技能(頼む)
- (第7回)
- 対人関係技能(断る)
- (第8回)
- 感情コントロール(不安)
- (第9回)
- 感情コントロール(怒り)
- (第10回)
- 対人関係技能(相手の気持ちを考える)
- (第11回)
- 対人関係技能(相手への気遣い)
- (第12回)
- 社会の中で必要なコミュニケーション能力(学校・日常生活場面)
- (第13回)
- 社会の中で必要なコミュニケーション能力(社会人としてのマナー)
- (第14回)
- 総括
- (第15回)

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	実践コミュニケーション
担当	梶原利彦
単位数	2単位

●評価

レポート課題 50点

授業参加の姿勢 50点

●教育資源(テキスト、その他)

PT・OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド第二版 山口美和 (医学書院)

大人の自閉症スペクトラムのためのコミュニケーションマニュアル 加藤進昌 (星和書店)

(上記は参考資料であり、教科書指定書籍ではない)

●注意点 その他

動きやすい服装で参加してください

年度・期	2023年度 前期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	解剖学 I
担当	諸見里 恵一
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

感覚器と循環器、内臓の立体的な位置関係と働きに関する知識を会得し、人体の構造の理解を深める

【SBOs】

<認知領域(知識)>

①人体構造を理解する

<情意領域(習慣・態度)>

① 人体構造機能を理解し身に着ける

<技能領域(技術)>

①人体の構造を示す分類や名称をいえる

②内臓の名称と所在箇所を説明できる

③血管の名称と所在箇所をいえる

●学習方略(講義計画)

- (第1回) 解剖学総論
- (第2回) 感覚器(外皮、視覚器)
- (第3回) 感覚器(平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器)
- (第4回) 循環器(心臓)
- (第5回) 循環器(動脈系)
- (第6回) 循環器(静脈系、リンパ系)
- (第7回) 消化器(口腔→食道)
- (第8回) 消化器(胃→大腸)
- (第9回) 内臓、脾臓、腹膜
- (第10回) 呼吸器系
- (第11回) 泌尿器系
- (第12回) 生殖器系
- (第13回) 内分泌系
- (第14回) 発生
- (第15回) まとめ

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	解剖学 I
担当	諸見里 恵一
単位数	2単位

評定方法

試験100点 平常点60点

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

配布プリント、標準理学療法・作業療法専門基礎分野 解剖学 第5版

●注意点 その他

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解がでない取柄の要因です。6回以上の欠席は単位履修の支障はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動をお願いします。

※講義日程は進行表で確認してください

講義内容は、進行状況などで変更がある場合があります。

年度・期	2023年度 前期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	解剖学Ⅱ
担当	諸見里 恵一
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

人体の構造につけられた解剖学用語を習得する。人体構造の実物ならびに画像を結び付け、運動器としての支持組織の役割を理解す。

【SBOs】

<認知領域(知識)>

①人体構造を理解する

<情意領域(習慣・態度)>

① 人体構造機能を理解し身に着ける

<技能領域(技術)>

①人体の構造を示す分類や名称をいえる

②骨の名称と所在箇所を説明できる

③関節・靱帯の名称と所在箇所をいえる

●学習方略(講義計画)

- (第1回) 骨学総論
- (第2回) 骨学各論 (頭蓋)
- (第3回) 骨学各論 (脊柱、胸郭)
- (第4回) 骨学各論 (上肢の骨)
- (第5回) 骨学実習 (骨格標本を使用)
- (第6回) 骨学実習 (骨格標本を使用)
- (第7回) 骨学各論 (下肢の骨)
- (第8回) 関節靱帯総論
- (第9回) 関節靱帯各論(頭蓋の連結、脊椎、脊椎と頭蓋および胸郭の連結)
- (第10回) 関節靱帯各論 (上肢の連結、下肢の連結)
- (第11回) 骨学実習 (骨格標本を使用)
- (第12回) 骨学実習 (骨格標本を使用)
- (第13回) 骨学実習 (骨格標本を使用)
- (第14回) 骨学口頭試験 (骨格標本を使用)
- (第15回) まとめ

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	解剖学Ⅱ
担当	諸見里 恵一
単位数	2単位

評定方法

試験(100点)、平常点(60点)、 試験+口頭試問=150点 6割以上で認定

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

配布プリント、標準理学療法・作業療法専門基礎分野 解剖学 第5版

●注意点 その他

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

講義内容は、進行状況などで変更がある場合があります。

※講義日程は進行表で確認してください

科目名		解剖学Ⅲ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生		単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	専門基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	高山 千利		科目副担当	0
目 標	総合	正常な生体の構造を理解することができる。		
	行動	①神経の名称が言える。②革新系の部位と構造・機能が説明できる。		
講 義 計 画	第1回	神経解剖ガイダンス・神経組織①		
	第2回	神経組織②		
	第3回	脊髄神経		
	第4回	脳神経		
	第5回	脳神経の診かた		
	第6回	脳の外観		
	第7回	脳の各論①		
	第8回	脳の各論②		
	第9回	脳の各論③		
	第10回	脳神経核①		
	第11回	脳神経核②		
	第12回	脳神経核③・伝導路①		
	第13回	伝導路②		
	第14回	髄膜・血管		
	第15回	まとめ		
教科書		絵でみる脳と神経 第4版 医学書院		
授業方法		講義		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス		国家試験にも出題頻度んお高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

年度・期	2023度 前期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	生理学 I
担当	細川 浩
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

人体の構造と機能の中で、生理学は医学系の基礎となる領域で、正常な機能、各機能の役割を学ぶことを

目標とする。特に生理学 I は基礎知識を得ることここに重点を置く。消化と栄養の吸収、エネルギー代謝にも必

【SBOs】

<認知領域(知識)>

①血液循環 呼吸、消化・吸収、代謝、排泄、内分泌を学ぶ

<情意領域(習慣・態度)>

①医療専門職として、解剖と生理を融合する

<技能領域(技術)>

①各器官系統を有機的にゆすびつける

●学習方略(講義計画)

- (第1回) 生理学とは 生理学の歴史
- (第2回) 生理学を学ぶための基礎知識
細胞レベルから始めよう エネルギーの生成 細胞膜の機能
- (第3回) 生体膜の機能
- (第4回) 体液とホメオスターシス
- (第5回) 自律神経系とは
- (第6回) 自律神経系の機能
- (第7回) 栄養の消化・吸収
口腔内・食堂・胃の機能
- (第8回) 小腸の機能・栄養素の消化と吸収
- (第9回) 大腸の機能・神経調節
- (第10回) 脾臓・肝臓・胆嚢の機能
- (第11回) 呼吸(発声・構音)
内呼吸と外呼吸、気道/肺胞の機能、呼吸気量
- (第12回) ガス交換とガスの運搬
- (第13回) 肺の循環と血流・呼吸運動の調整
- (第14回) 呼吸器系の病態生理
- (第15回) まとめ

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	生理学 I
担当	細川 浩
単位数	2単位

評定方法

提出課題(20%)、 期末試験(80%)

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

配布資料、専門基礎分野、解剖生理学(人体の構造と機能①) 医学書院

●注意点 その他

欠席・遅刻・早退は、十分な学習ができていない取手のサインです。5回以上の欠席は単位履修の欠陥はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動を促します。

※講義日程は進行表で確認してください

講義内容は、進行状況などで変更がある場合があります。

科目名		生理学Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生		単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	細川 浩		科目副担当	0
目 標	総合	人体に必要な生理機能（血液の役割や体温調節、心臓の収縮のしくみ）について理解することができる。		
	行動	①血液の構造や種類について説明することができる。②心臓の役割や収縮の仕組み、収縮するまでの興奮伝導について説明することができる。		
講 義 計 画	第1回	呼吸の病態生理		
	第2回	血液の組織・機能		
	第3回	酸素解離曲線		
	第4回	消化と吸収		
	第5回	貧血と赤血球増加症		
	第6回	血小板		
	第7回	血液の凝固		
	第8回	体温調節		
	第9回	体温調節		
	第10回	生体防御		
	第11回	心臓弁の役割		
	第12回	興奮の伝導		
	第13回	心臓の収縮・心周期		
	第14回	心音と心雑音		
	第15回	まとめ		
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 第11版 医学書院		
授業方法		講義		
評価方法		筆記試験		
履修 アドバイス		国家試験にも出題頻度んお高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

科目名		生理学Ⅲ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生		単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	細川 浩		科目副担当	0
目 標	総合	人体に必要な生理機能（血圧の調整や尿の生成から排泄のしくみ、内分泌の作用）について理解することができる。		
	行動	①血圧の調整の仕組みについて説明することができる。②内分泌と外分泌の違いを梨花氏できる。③ホルモンの生体への作用について説明できる。		
講 義 計 画	第1回	血圧・補助ポンプ・脈波と脈拍		
	第2回	血圧調節		
	第3回	微小血管と血流		
	第4回	循環器の病態生理		
	第5回	腎臓の機能		
	第6回	ヘンレループ		
	第7回	排尿路・尿の輸送と貯蔵		
	第8回	体液の調節・酸塩基平衡		
	第9回	内臓機能の調節・自律神経		
	第10回	内分泌と外分泌		
	第11回	内分泌各論①		
	第12回	膵臓		
	第13回	内分泌各論②		
	第14回	ホルモン調節		
	第15回	まとめ		
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 第12版 医学書院		
授業方法		講義		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス		国家試験にも出題頻度ん高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

年度・期	2023度 前期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	運動学 I
担当	金城 徳明
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

生体力学の基礎を身につけ、運動器や神経系の構造と機能を理解する。
 正常な身体構造と運動機能との関連を理解する。
 理学療法や作業療法に重要な、身体構造と運動機能との異常を分析する方法を学ぶ。

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①身体運動と作用する力との基本的な関係を理解する。
- ②力が与える作用を、量的な表現である仕事やエネルギーなどの概念を用いて説明できる。
- ③関節運動を回転運動としてとらえ、その作用を説明できる。
- ④身体の運動を記述する基本的な方法を把握する
- ⑤運動器の基本的な構造、生理学的特性について理解する。
- ⑥運動学的視点から運動器を理解する。

<情意領域(習慣・態度)>

- ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。

<技能領域(技術)>

- ①人間の行為を運動学的視点で観察できる。
- ②基本的な運動器を触診できる。

●学習方略(講義計画)

4月5日	(第1回)	運動学の定義 運動学とは、運動学の歴史
4月12日	(第2回)	生体力学の基礎 肢位、面と軸、運動方向
4月19日	(第3回)	運動器の構造と機能① 骨の構造と機能・関節の構造と機能
4月26日	(第4回)	運動器の構造と機能② 腱および靭帯の構造と機能・骨格筋
5月10日	(第5回)	上肢帯の運動学と筋
5月17日	(第6回)	肩周囲の運動学と筋①
5月24日	(第7回)	肩周囲の運動学と筋②
5月31日	(第8回)	肩周囲の運動学と筋③
6月7日	(第9回)	肘関節・前腕の運動と筋①
6月14日	(第10回)	肘関節・前腕の運動と筋②
6月21日	(第11回)	手関節・手指の運動と筋①
6月28日	(第12回)	手関節・手指の運動と筋②
7月5日	(第13回)	手関節・手指の運動と筋③
7月12日	(第14回)	手関節・手指の運動と筋④
7月19日	(第15回)	まとめ

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	運動学 I
担当	金城 徳明
単位数	2単位

●評価

形成的評価:小テスト(予定)

総括的評価:期末テスト

●教育資源(テキスト、その他)

基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版

標準理学療法・作業療法学 解剖学第4版

その他:適宜資料、骨模型、PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床 小柳磨毅ほか 金原出版など

●注意点 その他

運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。

授業を受けるには、基礎医学(主に解剖学)の知識が必須です。毎回その再学習と予習が必要です。

授業は連続した講義の積み重ねです。毎回出席し学習しないと、理解できません。

科目名		運動学Ⅱ	
履修時期	作業療学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	専門基礎分野	必修区分	必修
科目主担当	澤田 様子	科目副担当	0
目 標	総合	①生体力学の基礎を身につけ、運動器や神経系の構造と機能を理解する。 ②正常な身体構造と運動機能との関連を理解する。 ③理学療法や作業療法に重要な、身体構造と運動機能との異常を分析する方法を学ぶ。	
	行動	<認知領域（知識）> ①身体運動と作用する力との基本的な関係を理解する。 ②身体の運動を記述する基本的な方法を把握する。 ③運動器の基本的な構造、生理学的特性について理解する。 ④運動学的視点から運動器を理解する。 <情意領域（習慣・態度）> ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。 ②教科書以外の資料も参考にしながら、各筋の特徴を覚える。 <技能領域（技術）> ①人間の行為を運動学的視点で観察できる。 ②基本的な運動器を触診できる。	
講 義 計 画	第1回	下肢帯の運動学と筋	
	第2回	股関節の運動学と筋①	
	第3回	股関節の運動学と筋②	
	第4回	膝関節の運動と筋①	
	第5回	膝関節の運動と筋②	
	第6回	まとめ	
	第7回	足関節と足部の運動と筋①	
	第8回	足関節と足部の運動と筋②	
	第9回	体幹の運動学と筋①（頸部・胸部・腰部）	
	第10回	体幹の運動学と筋②（頸部・胸部・腰部）	
	第11回	体幹の運動学と筋③（頸部・胸部・腰部）	
	第12回	頭部・顔面の運動と筋	
	第13回	歩行と走行①（重心移動と体節回旋・下肢の角度変化・歩行時の上肢の運動）	
	第14回	歩行と走行②（歩行時のエネルギー代謝、小児、高齢者の歩行、歩行の神経機構、異常歩行）	
	第15回	まとめ	
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版 【参考書】PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床 小柳磨穀ほか 金原出版 その他：適宜資料、骨模型など		
授業方法	講義・演習・グループワーク		
評定方法	・筆記試験・課題		
履修 アドバイス	運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。 授業を受けるには、基礎医学（主に解剖学）の知識が必須です。毎回その再学習と予習が必要です。授業は連続した講義の積み重ねです。毎回出席し学習しないと、理解できません。		

科目名		運動学Ⅲ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	西村 昭宣	科目副担当	〇
目 標	総合	①人の運動分析項目を知り、様々な姿勢の重心変化について理解することができる。また、その運動の学習について、理論をもとに説明することができる。	
	行動	<認知領域（知識）> ①運動と動作の分析について理解できる。 ②姿勢について理解できる。 ③歩行と走行について理解できる。 ④運動学習について理解できる。 ⑤力が与える作用を、量的な表現である仕事やエネルギーなどの概念を用いて説明できる。⑥関節運動を回転運動としてとらえ、その作用を説明できる。 <情意領域（習慣・態度）> ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。 ②基本的な運動器を触診できる。 <技能領域（技術）> ①人間の行為を運動学的視点で観察できる。 ②基本的な運動器を触診できる。	
講 義 計 画	第1回	筋収縮・神経系（筋収縮の様態、運動単位、末梢神経・シナプス・中枢神経）	
	第2回	運動の中枢神経機構①（反射運動・脊髄反射・姿勢と立ち直り反射）	
	第3回	運動の中枢神経機構②（姿勢保持・随意運動）	
	第4回	姿勢①（姿勢とその制御、重心、立位の安定性、姿勢の記載と類型）	
	第5回	姿勢②（立位姿勢と異常について）	
	第6回	身体とてこ	
	第7回	起居動作・立ち上がり（動作分析）	
	第8回	体力と運動処方①（身体運動のエネルギー代謝）	
	第9回	体力と運動処方②（運動処方）	
	第10回	運動学習①（学習と記憶・運動機能とパフォーマンス）	
	第11回	運動学習②（運動学習の理論）	
	第12回	運動学習③（練習と訓練）	
	第13回	生体力学の基礎①（加速度・ベクトル・モーメント）	
	第14回	生体力学の基礎②（運動法則・てこ・骨と関節の運動）	
	第15回	まとめ	
教科書		①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版 【参考書】PT	
授業方法		講義・演習・グループワーク	
評価方法		・筆記試験・課題	
履修 アドバイス		運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。 授業を受けるには、基礎医学（主に解剖学）の知識が必須です。毎回その再学習と	

科目名		人間発達学		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生		単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	加藤 綾乃		科目副担当	0
目 標	総合	作業療法介入の基礎となる、ヒトの生涯発達について概説できる		
	行動	①発達段階について説明できる ②発達理論を理解し、ヒト（対象者）の発達過程における問題を想像することができる ③乳幼児期における姿勢反射・反応および運動発達について説明できる ④乳幼児期における認知（感覚・知覚）・社会性（ADL・遊び等）の発達について説明できる ⑤各年齢における運動・認知・社会性の発達について説明できる ⑥発達領域における検査の目的を理解し、各検査道具の特徴を説明できる ⑦発達学で使用する専門用語を理解することができる		
講 義 計 画	第1回	発達概念		
	第2回	発達理論		
	第3回	姿勢反射・反応1		
	第4回	姿勢反射・反応2		
	第5回	姿勢反射・反応3／国家試験問題を解こう		
	第6回	運動発達1		
	第7回	運動発達2		
	第8回	運動発達3		
	第9回	反応と6歳までの発達		
	第10回	上肢機能の発達		
	第11回	感覚・知覚・認知・社会性の発達		
	第12回	日常生活活動(ADL)の発達		
	第13回	発達検査		
	第14回	発達検査		
	第15回	まとめ		
教科書		イラストでわかる人間発達学		
授業方法		講義・グループワーク		
評定方法		グループ学習（発表＋課題）20%小テスト×4回 40%期末試験 40%		
履修 アドバイス		子どものリハビリテーションの基礎となりますので、きちんと習得できるよう、すべての講義を受けれるようにしましょう。グループワークでは積極的に参加し、内容をきちんと把握しましょう。		

科目名		病理学概論	
履修時期		作業療法学科 屋間主 2年生	単位/時間数 2単位／30時間
科目区分		専門基礎分野	必修区分 必修
科目主担当		比嘉 盛治	科目副担当 0
目 標	総合	病気のメカニズムを学ぶ。	
	行動	①病気の発生機序を説明できる。②病気の回復メカニズムを説明できる。③医療現場で留意すべき感染症への対策が説明できる。	
講義計画	第1回	病理学の領域	
	第2回	細胞と組織、その障害	
	第3回	再生と修復循環器障害 A	
	第4回	循環器障害 B (リンパ液)	
	第5回	炎症免疫	
	第6回	感染症代謝異常	
	第7回	老化と老年病新生児の病理先天異常	
	第8回	腫瘍	
	第9回	腫瘍(続き)	
	第10回	生命の危機	
	第11回	循環器・呼吸器、歯・口腔系	
	第12回	消化器系・内分泌系造血器系・腎・尿路系生殖系	
	第13回	乳腺、脳神経系運動器系	
	第14回	感覚器系	
	第15回	期末試験テスト	
教科書		資料配布	
授業方法		講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		内科学	
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数 2単位／30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分 必修
科目主担当		大山 拓真	科目副担当 0
目 標	総合	0	
	行動	1. 主要な内科疾患の症状や発生機序について説明できる。2. 主要な内科疾患の予後について理解する。3. 主要な内科疾患の治療方法について理解する。	
講 義 計 画	第1回	1. 内科学の概念、学ぶ意思 2. 内科診断と治療の実際A鑑別診断Bカルテの書き方	
	第2回	C診断法 C食欲不振D臨床検査 D悪心嘔吐E内科的治療 E易感染F意識障害 3 病理学A発熱B全身倦怠感	
	第3回	G眩暈HむくみIレイノー現象J頭痛Kリンパ腫脹LショックMPT、OTの関連4循環器A解剖生理B主な徴候C診	
	第4回	D循環器疾患各論 1. HTN 2. HypoTN 3. IHB 4. 心筋疾患 5. 弁膜症 6. 先天性心疾患 7. 心不全 8. 不	
	第5回	5.呼吸器疾患A肺の解剖と生理B徴候と病態生理C臨床検査初見D疾患各論E呼吸リハビリFPT・OTとの関連	
	第6回	6 消化管疾患A解剖生理B徴候と病態生理C検査法D各論EPT・OTとの関連	
	第7回	7 肝胆膵疾患A肝臓B胆道系C膵臓D腹膜E肝胆疾患検査F肝胆疾患各論G膵疾患各論H腹膜疾患各論IPT・OTと	
	第8回	8 血液、造血器疾患E各論 2、出血性疾患 3、血痰性要因 4、白血病・腫瘍性疾患FPT・OTとの関連	
	第9回	9 代謝性疾患A代謝調節の仕組みB疾患各論 1 糖尿病 2 インスリノーマ 3 脂質異常症 4 メタボリックシンドロ	
	第10回	1 0 内分泌疾患A総論Bホルモンの解剖・生理C検査法D疾患各論 1 視床下部症候群 2 下垂体疾患 3 視床下部一	
	第11回	1 1 腎・泌尿器疾患A解剖・生理B腎疾患の病態・生理C腎尿路系の検査D疾患各論 1 腎不全 2 糸球体疾患 3 糸	
	第12回	1 2 アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症A免疫系の働きBアレルギー疾患C膠原病Dリウマチ性疾	
	第13回	1 3 感染症A総論B各論CPT・OTとの関連 1 4 栄養学付録・知識	
	第14回	まとめ	
	第15回	まとめ	
教科書	標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第4版 内科学		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修 アドバイス	0		

年度・期	令和5年度 後期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 2年生
科目名	リハビリテーション関連医学
担当	星野 宗勲・他
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

医学的リハビリテーションの科学的な根拠を学ぶ

【SBOs】

< 認知領域(知識) >

①救急医療とリハビリテーションの関りを学ぶ

②各領域の薬物療法を学ぶ

③五大栄養素などについての学ぶ

< 情意領域(習慣・態度) >

①救命救急医療の概論と基本的な救急処置について学ぶ

②) 健康の保持・増進や疾病の予防に栄養・食事がどのように関わっているか理解する

③が人体に対してどのように作用するか、薬が人体内でどのような挙動をするかなどを理解できる

< 技能領域(技術) >

①救急蘇生法以外の手当(応急手当)を理解、修得する。

②急変時、救急処置の必要な患者さんの対応を医療従事者として理解、修得する

③薬物治療を患者ケアの視点から、薬の応用範囲、効果、正しい使用法や投与法などを理解し、適正な薬物の管理や取り扱い方法を学ぶ

●学習方略(講義計画)

(第1回)	救急医療とリハビリテーションの関り
(第2回)	BLS
(第3回)	救急医療と災害医療、DMAT
(第4回)	BLS
(第5回)	BLS
(第6回)	リハビリテーションと薬の関り
(第7回)	感染症炎症の制御と薬物療法 薬を理解するための基礎知識
(第8回)	薬の作用・生体内での薬理作用
(第9回)	薬の概念と分類・使い方 精神疾患の薬物療法
(第10回)	疼痛制御と薬物療法 注意すべき頓用される薬物
(第11回)	健康と栄養 栄養素の働きと種類
(第12回)	栄養状態の評価・判定 食事摂取の基準・運動と栄養
(第13回)	ライフステージと栄養① 妊娠期～乳児期
(第14回)	ライフステージと栄養② 学童期～高齢期
(第15回)	臨床栄養

年度・期	令和5年度 後期
学年	作業療法学科 昼間主 2年生
科目名	リハビリテーション関連医学
担当	星野 宗勲・他
単位数	2単位

●評価

筆記試験

●教育資源(テキスト、その他)

各回の領域の教科書

●注意点 その他

--

科目名		整形外科科学		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生		単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野		必選区分	必修
科目主担当	安田 知子		科目副担当	0
目 標	総合	リハビリテーションの対象である運動器疾患の代表として整形外科疾患を理解する。		
	行動	運動器疾患である整形外科の診断と治療について述べられるようになる。 それぞれの疾患の概要からリスク管理ができるようになる。		
講 義 計 画	第1回	整形外科科学総論/整形外科とは、整形外科科学とはなにか		
	第2回	総論 診断学診断とはなにか 問診・視診・触診・画像診断		
	第3回	総論 治療学保存療法と手術療法		
	第4回	疾患総論軟部組織損傷 1 軟部組織損傷(軟部組織、皮膚、筋・腱、血管)～熱傷		
	第5回	疾患総論 骨関節の損傷総論 骨折・捻挫・靱帯損傷・脱臼		
	第6回	疾患学Ⅰ 上肢肩関節		
	第7回	疾患学Ⅰ 上肢肘関節手関節手		
	第8回	疾患学Ⅰ 下肢股関節		
	第9回	疾患学Ⅱ 下肢膝関節		
	第10回	疾患学Ⅰ 下肢足関節疾患		
	第11回	疾患学Ⅰ 脊椎・脊髄疾患腰椎椎間板ヘルニア脊髄損傷スマホ首		
	第12回	疾患学Ⅱ リウマチ/自己免疫疾患リウマチ悪性リウマチ若年性突発性関節炎感染症		
	第13回	疾患学Ⅱ 骨系統疾患～代謝性疾患骨形成不全症骨粗鬆症		
	第14回	疾患学Ⅱ 骨腫瘍 良性腫瘍 悪性腫瘍末梢神経損傷慢性疼痛疾患		
	第15回	疾患学Ⅱ スポーツ医学 スポーツ整形外科と障がい者スポーツ小児整形外科骨端線障害と子供のスポーツ外		
教科書		整形外科科学テキスト[改訂第4版] 南江堂		
授業方法		講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

年度・期	2023年度 前期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 2年生
科目名	神経内科学
担当	金城 徳明
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

神経内科学全般の知識を習得する

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①神経診断学に必要な評価を説明出来る
- ②主要な神経内科疾患の病態を説明出来る
- ③神経疾患の発生机序、内容を説明出来る
- ④各疾患についての診断・病因・症状・検査・治療・予後について説明出来る

<情意領域(習慣・態度)>

- ①上記知識について他者と議論できる
- ②グループワークで自分の意見を言える

<技能領域(技術)>

- ①各疾患対象者の担当時に適切な対応が出来る
- ②ポイントを押さえたプレゼンテーションが出来る

●学習方略(講義計画)

4月4日	(第1回)	脳・神経解剖・生理学復習 神経診断学 神経兆候①(意識障害)
4月11日	(第2回)	神経徴候②(脳神経)
4月18日	(第3回)	神経徴候③(運動系、感覚系)
4月25日	(第4回)	脳血管障害① 脳梗塞
5月2日	(第5回)	脳血管障害② 脳出血
5月9日	(第6回)	脳血管障害③ 頭部外傷
5月16日	(第7回)	脳血管障害④ 高次脳機能(注意機能、記憶)
5月23日	(第8回)	脳血管障害⑤ 高次脳機能(失行・失認・失語)
5月30日	(第9回)	脳血管障害⑥ 高次脳機能(身体・空間無視、遂行・認知機能)
6月6日	(第10回)	脳画像の診かた(CT、MRIを中心に)
6月13日	(第11回)	変性症① パーキンソン病
6月20日	(第12回)	変性症② 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症
6月27日	(第13回)	脱髄疾患① 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症
7月4日	(第14回)	筋ジストロフィー
7月11日	(第15回)	まとめ

年度・期	2023年度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 2年生
科目名	神経内科学
担当	金城 徳明
単位数	2単位

●評価

期末試験:60%

講義内評定:40%(レポート課題15%、グループワーク10%、プレゼンテーション15%)で評価する

●教育資源(テキスト、その他)

①神経内科学テキスト 改訂第4版 南江堂

②ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂

③病気がみえる vol7 第2版 脳・神経 MEDIC MEDIA出版

●注意点 その他

範囲の広い神経内科学の分野を効率よく効果的に学習できるよう基礎的知識の復習を適時行うこと。

レポート課題や小テスト、グループワーク、プレゼンテーションも評定に含まれる。

脳血管疾患 レポート ⑭コマ目提出予定

科目名		精神医学	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	井上 美和	科目副担当	吉田恭子・大城 圭
目 標	総合	主要な精神疾患を知る。	
	行動	①主要な精神疾患の症状・発症契機・予後について知ることができる。 ②一般的な精神科の治療方法について知ることができる。 ③各症状について説明することができる。	
講 義 計 画	1回目	1章：総論（精神医学とは）	
	2回目	3章：総論（精神機能とその異常）	
	3回目	8章：精神医療と社会	
	4回目	10章：統合失調症	
	5回目	19章：脳器質性精神障害（認知症など）	
	6回目	20章：てんかん	
	7回目	5章：精神医学的診察と診断7章：コンサルテーション・リエゾン	
	8回目	23章：症状精神病	
	9回目	9.22章：発達障害/精神遅滞/心理発達など	
	10回目	18章：物質関連商連・アルコール	
	11回目	11.12章：気分障害（12章双極・11章うつ）	
	12回目	13～15章：神経症性障害	
	13回目	2.6.17章脳科学と精神医学/摂食障害/睡眠覚醒障害	
	14回目	21章：パーソナリティ障害	
	15回目	6章：精神科治療学	
教科書	標準精神医学 第8版		
授業方法	講義		
評定方法	期末筆記試験		
履修 アドバイス	精神科領域に限らず、身体障害領域でも精神疾患を合併している対象者は多くいます。必ず主要疾患の理解と、一般的な治療方法は理解しておくこと。		

科目名		小児科学	
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数 2単位／30時間
科目区分		専門分野	必選区分 必修
科目主担当		知花 愛里	科目副担当 0
目 標	総合	0	
	行動	①主要な小児疾患の症状、予後、治療方法を知る。②小児疾患全般を理解し、リハビリテーションへの応用へ繋げることができる。	
講 義 計 画	1回	発達について	
	2回	新生児について	
	3回	3-4カ月の発達	
	4回	6-7カ月の発達	
	5回	8-12カ月の発達	
	6回	神経発達症について	
	7回	1才の発達について	
	8回	2才の発達について	
	9回	3才の発達について	
	10回	4才の発達について	
	11回	5才の発達について	
	12回	7才～11才の発達について	
	13回	11才～14才の発達について	
	14回	14才～17才の発達について	
	15回	まとめ	
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 P T O T 小児科学	
授業方法		講義・グループワーク	
評定方法		・筆記試験	
履修 アドバイス			

年度・期	2023度 前期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	リハビリテーション概論 I
担当	上江洲 聖
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

自律した作業療法士になるために、臨床現場で使えるコミュニケーションを身につけ、リハビリテーションの必要な基礎知識と専門用語を理解することができる

【SBOs】

< 認知領域(知識) >

- ①リハビリテーションの歴史や、病期別の関わりについて理解する
- ②作業療法士に必要なリハビリテーション基礎知識、専門用語を理解する
- ③リハビリテーションに関連する法規および安全な医療について理解する

< 情意領域(習慣・態度) >

- ①リハビリテーションマインドについて理解し、意識を持つ
- ②チーム医療の目的や意味を知り、多職種での関わりを意識できる
- ③作業療法士になることへの意識を高め、専門教科学習に前向きに取り組む意欲を高める

< 技能領域(技術) >

- ①障害像とリハビリテーションについてイメージすることができる
- ②他職種の仕事内容を理解し、連携の重要性について理解する
- ③障害につながる疾患についての基礎知識を知り、病態像をイメージすることができる

●学習方略(講義計画)

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| (第1回) | リハビリテーションの定義と歴史・領域 |
| (第2回) | リハビリテーションマインドとチーム医療(多職種連携)
クリニカルパス |
| (第3回) | ADLの概念① |
| (第4回) | ADLの概念② |
| (第5回) | 法規・関連制度 |
| (第6回) | チーム医療/他職種理解 (社会福祉士) SW 古御堂先生 |
| (第7回) | チーム医療/他職種理解 (理学療法士) 未定 |
| (第8回) | チーム医療/他職種理解 (柔道整復師) JT金城先生 |
| (第9回) | 医療安全・感染対策 |
| (第10回) | 障害分類について①
ICF解説 |
| (第11回) | 障害分類について②
ICF実践 グループ学習 |
| (第12回) | 臨床でのコミュニケーション
医療面接と基本テクニック |
| (第13回) | 障害につながる疾患の概要 |
| (第14回) | 障害につながる疾患 調べ学習 |
| (第15回) | 復習とまとめ |

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 1年生
科目名	リハビリテーション概論 I
担当	上江洲 聖
単位数	2単位

提出課題(20%)、 期末試験(80%)

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

リハビリテーション概論 改訂第4版 田島 文博 編著

リハビリテーション総論 編著 椿原彰夫 (診断と治療社)

PT/OT国家試験必修ポイント2023 専門基礎分野 臨床医学 医歯薬出版

日本作業療法士協会発行冊子

●注意点 その他

①配布資料はデータ化しクラスルームへ配布します。タブレットを毎回必ず持参すること。

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容・課題範囲などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

科目名		リハビリテーション概論Ⅱ		
履修時期		作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位／30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		井上 美和	科目副担当	0
目 標	総合	リハビリテーションの理念、社会保障、地域包括ケアシステムを理解し、説明できる。		
	行動	①リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援など）を理解する②社会保障、地域包括ケアシステムについて理解する③地域における作業療法士の役割を理解し、関連職種の役割を把握する④作業療法士が果たすべき役割、多職種連携について状況に応じて選択することができる		
講 義 計 画	第1回	リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援など）について①		
	第2回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）①		
	第3回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）②		
	第4回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）③		
	第5回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）④		
	第6回	リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援など）について②		
	第7回	就労支援における作業療法士の役割①		
	第8回	就労支援における作業療法士の役割②		
	第9回	地域包括ケアシステムについて①		
	第10回	地域包括ケアシステムについて②		
	第11回	地域包括ケアシステムについて③		
	第12回	住み慣れた地域の現状を考える1（個人課題）		
	第13回	地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活躍の実例①GW		
	第14回	地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活躍の実例②発表		
	第15回	まとめ		
教科書		標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論（医学書院） 配布資料：適宜		
授業方法		講義、演習、グループワーク		
評定方法		① 筆記試験：80％②授業態度：10％③提出課題：10％		
履修 アドバイス		情報収集を行いグループワークに積極的に参加してください		

科目名		作業療法概論		
履修時期		作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		上江洲 聖	科目副担当	〇
目 標	総合	作業療法の概要を理解し、説明することができる		
	行動	<認知領域（知識）> 「作業」とは何かを知り、作業療法の定義や原理・歴史について理解できる。また、リハビリテーションの関連性を理解し諸外国と日本の作業療法の現状を理解する。 <情意領域>作業療法士になるための教育体制を知り、求められる資質を理解することで習慣化できる。また他職種連携の重要性と作業療法のエビデンスを理解する。 <技能領域>作業療法の実践過程を理解し、行動に移すことができる。円滑なコミュニケーションを取ることができる。		
講 義 計 画	第1回	作業とは何か		
	第2回	作業療法の歴史（諸外国・日本）		
	第3回	世界の作業療法と日本の作業療法		
	第4回	作業療法の領域・他職種連携について		
	第5回	EBMとOT		
	第6回	作業療法の過程		
	第7回	医療福祉制度		
	第8回	作業療法の実際① ～発達領域におけるOT～		
	第9回	作業療法の実際② ～精神領域におけるOT～		
	第10回	作業療法の実際③ ～身体領域におけるOT～		
	第11回	作業療法の実際④ ～高齢期におけるOT～		
	第12回	作業療法の実際⑤ ～教育現場におけるOT～		
	第13回	作業療法の理論		
	第14回	作業療法の実際⑥ ～作業について～		
	第15回	作業療法の管理運営・記録と報告		
教科書		標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 第4版 医学書院		
授業方法		講義、演習、グループワーク		
評定方法		筆記試験、出席率、課題		
履修 アドバイス		作業療法についての基礎を学ぶ科目です。これまでの歴史を知り、概念を知ること、より、作業療法についての楽しさを知ることができます。授業には毎回参加しましょう。		

科目名		基礎作業学Ⅰ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生		単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	矢内 和香		科目副担当	0
目 標	総合	作業体験を通して、分析項目を知ることができ、様々な視点を持って分析することができる。		
	行動	<認知領域（知識）> ①作業療法における「作業」の定義を説明できる。②人の暮らしにおける「作業」の種類を説明することができる。③分析項目について知ることができる。<情意領域（習慣・態度）>①各作業の実演時に、分析シートに繋がる項目を見ながら実演できる。<技能領域（技術）>①作業活動を実践することができる。②活動の実演を通して、各領域の分析項目を記載できる。		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション～作業療法の歴史・基礎作業ですることは何か？～		
	第2回	作業を用いた療法に関連する基本事項について～まずはやってみよう！ADL動作(歯みがき)の分析～		
	第3回	園芸活動(実践)		
	第4回	園芸活動(分析)		
	第5回	フィンガーペインティング(実践)		
	第6回	フィンガーペインティング(分析)		
	第7回	風船バレー(実践)		
	第8回	風船バレー(分析)		
	第9回	調理(実践)		
	第10回	調理(分析)		
	第11回	アンデルセン(実践)		
	第12回	アンデルセン(実践)		
	第13回	アンデルセン(実践)		
	第14回	アンデルセン(分析))		
	第15回	まとめ		
教科書		作業学 第3版 (作業療法学ゴールドマスター・テキスト)eテキスト		
授業方法		講義、グループワーク、活動実践、発表		
評定方法		①課題：30%②筆記試験：70%		
履修 アドバイス		①教科書(eテキスト)、ipad他、活動時に使う物品の準備をお願いします。②資料等があればクラスルームに配布しますので、準備をお願いします。		

科目名		基礎作業学Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生		単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	矢内 和香		科目副担当	〇
目標	総合	・作業種目を包括的（行程や道具、運動機能や感覚・知覚機能、精神・認知機能、対人交流やリスク管理など）に分析することができる。また、作業種目の特性を理解し適応可能な対象疾患を列挙することができる。 ・ADLを包括的（行程や道具、運動機能や感覚・知覚機能、精神・認知機能、対人交流やリスク管理など）に分析することができる。		
	行動	<認知領域（知識）>①全領域（身体、精神、発達等）において、項目に沿った分析を列挙することができる②作業種目が持つ特性（身体、精神、発達側面）を理解する③疾患別、障害別の作業活動の有効性、禁忌事項を理解する<情意領域（習慣・態度）>①作業課題のリスク管理ができる②セラピストとして、安全管理、作業介入ができる③円滑な対人交流を図りながら課題に取り組むことができる<技能領域（技術）>①分析シートを用いて、各作業の特性とその理由について、分析内容を書き出すことができる。②分析種目の作業と、類似する性質をもつ作業を抽出することができる。③作業分析項目を書き出すことができる		
講義計画	第1回	基礎作業学Ⅰの復習(身障領域)、正常人の立ち上がり動作観察(グループ学習)		
	第2回	基礎作業学Ⅰの復習(身障領域)、正常人の立ち上がり動作観察(グループ学習)		
	第3回	ウォーキング（実践）		
	第4回	ウォーキング（分析）		
	第5回	ネット手芸（実践）		
	第6回	ネット手芸（分析）		
	第7回	革細工（実践）		
	第8回	革細工（分析）		
	第9回	木工(実践)		
	第10回	木工(実践)		
	第11回	木工(分析)		
	第12回	感覚統合（グループ実践）		
	第13回	感覚統合（グループ実践）		
	第14回	感覚統合（グループ実践・分析）		
	第15回	まとめ		
教科書		ゴールド・マスター・テキスト作業学 第3版		
授業方法		講義・実践・グループワーク		
評定方法		・筆記試験（期末試験80％） ・課題（20％）		
履修アドバイス		①教科書(電子書籍ゴールドマスター作業学)・ipadをご持参ください ②15回目は、配布された資料をすべて持参してください。 ③必要に応じ準備物がありますのでその都度お知らせします。		

科目名		作業療法管理学		
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位／30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		上江洲 聖	科目副担当	0
目 標	総合	作業療法サービスを効率よく安全に提供するための管理（マネジメント）の視点を養う。		
	行動	①組織の役割を理解する②チーム医療の役割を理解する③各種制度を理解する ④各種管理を理解する		
講 義 計 画	1回目	オリエンテーション ～講義の流れ、検査の目的・意義・方法を理解する		
	2回目	病院の分類と組織		
	3回目	専門職とチームケア		
	4回目	専門職とは		
	5回目	社会保障の仕組み		
	6回目	医療保険制度		
	7回目	介護保険制度		
	8回目	職業倫理		
	9回目	業務管理		
	10回目	情報管理		
	11回目	感染管理		
	12回目	教育管理		
	13回目	リスク管理①		
	14回目	リスク管理②		
	15回目	まとめ		
教科書		①作業療法管理学 中山書店 		

科目名		作業療法評価法 I	
履修時期		作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数 2単位／60時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分 必修
科目主担当		矢内 和香	科目副担当 0
目 標	総合	作業療法評価（身体領域・精神領域）の主要評価項目について説明し、理解することができる。また、形態測定・血圧測定においては、スムーズに計測することができる。	
	行動	<認知領域（知識）>①作業療法における「作業」の定義を説明できる。②人の暮らしにおける「作業」の種類を説明することができる。③分析項目について知ることができる。<情意領域（習慣・態度）>①各作業の実演時に、分析シートに繋がる項目を見ながら実演できる。<技能領域（技術）>①作業活動を実践することができる。②活動の実演を通して、各領域の分析項目を記載できる。	
講 義 計 画	第1回	評価とは？作業療法の過程・情報収集段階・評価の目的と主眼①評価の手順・手段	
	第2回	実施上の留意点・評価のまとめと問題点・治療目標の設定②治療・指導・援助計画の立案	
	第3回	面接・観察法観察の種類～効果判定	
	第4回	面接について①自己紹介	
	第5回	面接について②作業療法の説明	
	第6回	面接について③インテーク面接	
	第7回	面接について④対象者にとっての作業	
	第8回	再評価・作業療法の効果	
	第9回	効果判定の方法・フォローアップ	
	第10回	意識の評価およびバイタルサインの測定	
	第11回	臨床検査の検査値の読み方・効果判定・治療への示唆	
	第12回	形態計測、身体機能の検査測定に共通する項目・携帯測定の意味	
	第13回	形態計測の基準点・指標・種類、形態計測実地	
	第14回	形態計測の基準点・指標・種類、形態計測実地	
	第15回	まとめ	
教科書		①標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(eテキスト)	
授業方法		講義、演習、実地テスト	
評定方法		①筆記試験：90% ②実技テスト（血圧測定・形態測定）：10%	
履修 アドバイス		①作業療法評価学 I は、前期科目で得た知識も含まれますので学びなおし（復習）が必要です。Ipad、教科書をご持参下さい。②作業療法の対象疾患（身体領域、精神領域、小児領域、老年期等）すべてに共通する内容です。③触診のしやすい、また動きやすい服装で参加して下さい。	

科目名		作業療法評価法Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	澤田 祥子	科目副担当	0
目 標	総合	各検査・測定を目的を理解し、かつ、それを説明できる。また、注意事項を守りながら、実施できる。	
	行動	<認知領域 ～知識～> ①各検査の目的を知る。 ②各検査の種類を知り、実施手順を説明できる。 ③各検査に使用する道具、または必要な道具を答えることができる。 ④各検査実施時の注意事項を知る。 <情意領域 ～態度・習慣～> ①各検査で使用する道具の準備や、操作について知り、理解することができる。 ②各検査の注意事項を確認しながら、練習することができる。 <精神運動領域 ～技能～> ①各検査の目的を、クラスメイトに口頭で説明できる。 ②各検査がスムーズに行える。	
講 義 計 画	第1回	関節可動域測定①目的、方法の説明・肩甲帯・肩関節 実技練習	
	第2回	関節可動域測定②肘関節・手関節 実技練習	
	第3回	関節可動域測定③手指・頸部・体幹 実技練習	
	第4回	関節可動域測定④上肢のまとめ	
	第5回	関節可動域測定⑤ 股関節・膝関節・足部 実技練習	
	第6回	関節可動域測定⑤ 下肢まとめ	
	第7回	関節可動域測定⑥記録の方法・効果判定について	
	第8回	感覚検査①目的の説明・実施方法の説明	
	第9回	感覚検査②実技練習・記録練習	
	第10回	腱・表在・病的反射検査①目的の説明・実施方法の説明	
	第11回	腱・表在・病的反射検査②練習・記録練習	
	第12回	姿勢反射検査・リーチ①目的の説明・実施方法の説明	
	第13回	姿勢反射検査・リーチ②実技練習・記録練習	
	第14回	筋緊張検査①目的の説明・実施方法の説明	
	第15回	筋緊張検査② 実技練習・記録練習	
教科書	標準作業療法学第3版 作業療法評価学 理学療法評価学 第5版		
授業方法	講義・実技		
評定方法	実技試験40％、筆記試験60％		
履修 アドバイス	①解剖・運動・生理学を基礎とし、身体の評価を行います。基礎の復習を行い、基本評価項目の習得に取り組んで下さい。 ②作業療法評価学Ⅱは、下記のような位置づけになっています。現在学んでいる科目もありますが、前期科目であやふやな知識については、改めて学びなおし（復習）し、授業に参加して下さい。必要に応じて、教科書を持参して下さい。		

科目名		作業療法評価法Ⅲ		
履修時期		作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		宗像 暁美	科目副担当	0
目 標	総合	各評価の項目における必要な基礎知識をもって、評価が実施できる。		
	行動	<認知領域（知識）>徒手筋力検査・脳神経検査・ADL評価・協調性検査・上肢機能検査の意義と目的および実施方法について説明できる。<情意領域（週間・態度）>書く検査に必要な道具の扱いや物品の管理ができる。書く検査を安全にじっしできるように配慮できる。検査測定実施時に、模擬患者へのメモの確認やインフォームドコンセントが行える。<技能領域>各検査を実施できる。また道具や環境についても適切に扱うことができる。		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション・脳神経検査①		
	第2回	脳神経検査②		
	第3回	協調性検査①		
	第4回	協調性検査② ～実技練習～		
	第5回	徒手筋力検査① ～肩甲帯・上肢の実技練習～		
	第6回	徒手筋力検査② ～上肢の実技練習～		
	第7回	徒手筋力検査③ ～上肢・手の実技練習～		
	第8回	徒手筋力検査④～体幹の実技練習～		
	第9回	徒手筋力検査⑤ ～下肢の実技練習～		
	第10回	徒手筋力検査⑥ ～下肢の実技練習～		
	第11回	ADL評価① ～評価の目的～		
	第12回	ADL評価② ～ADL評価の種類～		
	第13回	ADL評価③ ～観察・記録練習～		
	第14回	上肢機能検査① ～意義・目的・種類～		
	第15回	上肢機能検査② ～実技練習～		
教科書		①標準作業療法学第3版 作業療法評価学②理学療法評価学 第5版③新・徒手筋力検査法 原著第10版		
授業方法		講義・実技		
評定方法		実技試験、筆記試験、中間テスト		
履修 アドバイス		①事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。②実技の復習を必ず行ってください（実技試験あり）。		

科目名		作業療法評価法Ⅳ			
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間	
科目区分		専門分野	必選区分	必修	
科目主担当		宗像 暁美	科目副担当	0	
目 標	総合	ADLの理念・概要を理解する。標準化されたADL評価法を理解し、評価を実施することができる。高次脳機能障害の基礎となる脳解剖やメカニズムを理解し、高次脳機能障害における観察・検査・測定が実施できる。			
	行動	<認知領域（知識）>①標準化されたADL評価法の概要や各項目を理解することができる。また精神領域におけるADL評価の意義や目的を説明できる。②片麻痺機能の神経生理学的な機序を理解し、検査の意義目的を説明できる。③高次脳昨日検査に必要な脳解剖や画像診断の見方を修得し、各症状の定義やメカニズムを理解することができる <情意領域（習慣・態度）> >①各検査の観察・検査・測定に必要な道具を準備することができる。②安全かつ検査・測定に適した環境を設定し実施することができる。 <技能領域（技術）>①標準化されたADL評価法を実施することができる。また、精神領域のADLに			
講 義 計 画	第1回	ADLの評価について① ～1年時の復習～			
	第2回	ADL評価について② ～精神領域のADL評価～			
	第3回	ADL評価について③ ～精神領域のADL評価～			
	第4回	ADL評価について④ ～まとめ～			
	第5回	片麻痺上肢機能検査① ～意義・目的～			
	第6回	片麻痺上肢機能検査② ～実技練習～			
	第7回	片麻痺上肢機能検査③ ～実技練習～			
	第8回	高次脳機能障害の評価① ～高次脳機能障害とは～			
	第9回	高次脳機能障害② ～注意障害～			
	第10回	高次脳機能障害③ ～記憶障害～			
	第11回	高次脳機能障害④ ～失行～			
	第12回	高次脳機能障害⑤ ～失認～			
	第13回	高次脳機能障害⑥ ～空間無視・身体無視～			
	第14回	高次脳機能障害⑦ ～失語～			
	第15回	高次脳機能障害⑧ ～遂行機能障害・社会的行動障害・認知機能検査～			
教科書		①標準作業療法学第3版 作業療法評価学②理学療法評価学 第5版③新・徒手筋力検査法 原著第10版			
授業方法		講義・実技			
評定方法		実技試験、筆記試験、中間テスト			
履修 アドバイス		①事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。②実技の復習を必ず行ってください（実技試験あり）。			

年度・期	2023年度 前期
学年	作業療法学科 昼間部 2年生
科目名	身体作業治療学Ⅰ
担当	澤田 祥子
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

身体機能作業療法学の基礎知識を習得し、各治療原理を説明することができる

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①身体機能治療の目的を述べることができる。
- ②作業療法の過程を説明でき、トップダウンとボトムアップについて述べることができる。
- ③各回の主題について、必要な知識を説明することができる。

<情意領域(習慣・態度)>

- ①資料と教科書の主要ポイントに印を入れることができる
- ②各回の実技時に、ポイントをメモし、練習時に確認することができる。

<技能領域(技術)>

- ①対象者の感触を確認しながら、不快感を与えない接触方法を覚える。
- ②基礎知識をもとに、関節可動域訓練時のハンドリング位置を覚えることができる。
- ③各回の実技時に、ポイントを確認しながら、クラスメイトと実践できる。

●学習方略(講義計画)

4月7日	(第1回)	身体作業療法の目的 ～ 治療推論、診療報酬、治療方式について ～
4月7日	(第2回)	治療原理 ～ ボディメカニクス・理論・フィードバックとフィードフォワード～
4月14日	(第3回)	関節可動域訓練① 上肢の基本的なハンドリング
4月14日	(第4回)	関節可動域訓練② 下肢の基本的なハンドリング
4月21日	(第5回)	筋力増強訓練① 機能的な機能訓練方法
4月21日	(第6回)	筋力増強訓練② ADLにつなげた方法
4月28日	(第7回)	知覚再教育訓練
4月28日	(第8回)	物理療法とリスク管理① 臨床で関わりやすい物理療法の実施と効果
5月19日	(第9回)	物理療法とリスク管理② 臨床で関わりやすい物理療法の実施と効果
5月19日	(第10回)	切断と義肢① 切断部位・義肢総論
7月7日	(第11回)	切断と義肢② 義手各種
7月14日	(第12回)	切断と義肢③ チェックアウト、まとめ
7月14日	(第13回)	装具・スプリント① 各疾患の装具・splint・自助具(末梢神経障害、関節リウマチ、骨折など)
7月21日	(第14回)	装具・スプリント② 実技・作製
7月21日	(第15回)	まとめ

年度・期	2021年度 前期
学年	作業療法学科 昼間部 2年生
科目名	身体作業治療学Ⅰ
担当	澤田 祥子
単位数	2単位

●評価

筆記試験:100%

●教育資源(テキスト、その他)

標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版

作業療法学 ゴールドマスターテキスト 4 身体障害作業療法学 (参考文献)

●注意点 その他

①解剖学、生理学、運動学の基礎知識をベースに授業を進めていきます。不足している知識、あやふやな知識は、授業を通して、再度学び直しの時間を取るよう心がけてください。

②3回目の授業以降は動きやすい服装で参加してください。

③適宜確認testを実施していきます。期末の筆記試験に向けての対策資料として活用してください。

④装具療法・スプリントは、国家試験にも出題頻度が高いものです。基礎知識を固めて授業へ参加してください。

令和5年度

学年	作業療法学科 昼間主 2年生
科目名	身体作業治療学Ⅱ
担当	西村 昭宣
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

脳血管障害に対する作業療法を実施できるようになるために、この疾患の病態を理解し、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。

◎行動目標 SBOs

【知識 ー認知領域ー】

- ①脳血管障害の発生機序と臨床像の違いを説明できる。
- ②脳血管障害の病期に応じた作業療法の概要について述べることができる。

【習慣・態度 ー情意領域ー】

- ①各評価や治療に必要な道具の扱いや、物品管理を行える。
- ②各評価や治療を安全に行えるよう、配慮できる。
- ③各評価や治療を通して学んだことを他者と討議できる。

【技能 ー精神運動領域ー】

- ①脳血管障害の基本的な機能回復訓練手技を実施できる。
- ②脳血管障害の対象者のADL自立のために、適切な介助法が実施できる。

●学習方略(講義計画)

4月10日	(第1回)	オリエンテーション、復習(作業療法プロセス、脳解剖)
4月17日	(第2回)	廃用症候群に対する作業療法
5月1日	(第3回)	筋緊張異常に対する作業療法
5月8日	(第4回)	協調運動障害に対する作業療法
5月15日	(第5回)	脳血管障害に対する作業療法(急性期)(亜急性期)
5月22日	(第6回)	脳血管障害に対する作業療法(亜急性期)(回復期)
5月29日	(第7回)	脳血管障害に対する作業療法(回復期)
6月5日	(第8回)	脳血管障害に対する作業療法(生活期)

6月12日	(第9回)	脳血管障害に対する作業療法 促通法・治療手技
6月19日	(第10回)	脳血管障害に対する作業療法 促通法・治療手技・介助方法
6月26日	(第11回)	脳血管障害に対する作業療法(作業療法ガイドライン 脳卒中について)
7月3日	(第12回)	CVAに対する作業療法(作業療法計画立案discussion)
7月10日	(第13回)	CVAに対する作業療法(作業療法計画立案discussion)
7月24日	(第14回)	CVAに対する作業療法(作業療法計画立案presentation)
7月24日	(第15回)	まとめ

●評価

授業態度

筆記試験

グループワーク・ディスカッション

●教育資源(テキスト、その他)

標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版

標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版

作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 身体障害作業療法学

配布資料、その他

●注意点 その他

※実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。

※事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。

※積極的なディスカッションや発表が行えるよう、調べ学習や振り返り(復習等)を行ってください。

科目名		身体作業治療学Ⅲ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生		単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野		必選区分	必修
科目主担当	宗像 暁美		科目副担当	0
目 標	総合	変性・脱髄疾患、内部疾患、ターミナル等の評価から治療までの流れを把握し、治療計画立案について理解することができる		
	行動	①各疾患の病態及び予後について説明できる ②各疾患の評価について説明できる。 ③各疾患の作業療法目標、治療、対象者が地域生活・社会参加のための方法について知ることができる。 ④基本的な介入について、国家試験を題材とした対象者について考えることができる。		
講 義 計 画	第1回	神経筋疾患の作業療法① 多発性硬化症（MS）		
	第2回	神経筋疾患の作業療法② ギラン・バレー症候群（GBS）		
	第3回	神経筋疾患の作業療法③ 筋ジストロフィ（MD）		
	第4回	神経変性疾患の作業療法① パーキンソン病（PD）		
	第5回	神経変性疾患の作業療法② 脊髄小脳変性症（SCD）		
	第6回	神経変性疾患の作業療法③ 筋萎縮性側索硬化症（ALS）		
	第7回	内部疾患の作業療法① 心疾患（心臓の機能解剖・心電図）		
	第8回	内部疾患の作業療法② 心疾患（心疾患と作業療法1）		
	第9回	内部疾患の作業療法③ 心疾患（心疾患と作業療法2）		
	第10回	内部疾患の作業療法④ 呼吸器疾患（呼吸器の解剖生理・疾患学）		
	第11回	内部疾患の作業療法⑤呼吸器疾患（作業療法・喀痰吸引）		
	第12回	内部疾患の作業療法⑥ 糖尿病		
	第13回	悪性腫瘍疾患の作業療法① OPE後対応		
	第14回	悪性腫瘍疾患の作業療法② ターミナルケア		
	第15回	まとめ		
教科書		標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 身体障害作業療法学 配布資料、その他		
授業方法		講義		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス		実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。 事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。		

科目名		身体作業治療学Ⅳ		
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		澤田 祥子	科目副担当	0
目 標	総合	履修した基礎医学知識を駆使して、脊髄損傷、RA、骨折、腱損傷などの病理病態を理解する。		
	行動	<認知領域（知識）> ①修復した各疾患特性を理解し説明できる。 ②修復した各疾患特性の時期に合わせたリスク管理、評価の説明や計画出来る。 <情意領域（習慣・態度）> ①期限内に与えられた課題を遂行し提出することが出来る。 <技能領域（技術）> ①修復した各疾患特性の時期に合わせたリスク管理、評価、目標設定、プログラムが計画出来る。		
講 義 計 画	第1回	脊髄損傷①オリエンテーション		
	第2回	脊髄損傷②概論		
	第3回	脊髄損傷③身体機能などの評価		
	第4回	脊髄損傷④急性期：画像評価、プロトコル、リスク管理		
	第5回	脊髄損傷⑤回復期：評価、プロトコル		
	第6回	脊髄損傷⑥社会復帰・在宅復帰に向けて		
	第7回	脊髄損傷⑦まとめ		
	第8回	RA① 病態・評価・治療		
	第9回	RA② 自助具・環境調整		
	第10回	骨折① 評価・治療（上肢）		
	第11回	骨折② 評価・治療（体幹・下肢）		
	第12回	腱損傷・腱板損傷		
	第13回	末梢神経損傷 ①疾患概要・評価		
	第14回	末梢神経損傷②治療		
	第15回	熱傷		
教科書		身体機能作業療法学第3版 作業療法学 ゴールドマスタートテキスト 身体障害作業療法学 配布資料		
授業方法		講義		
評価方法		筆記試験		
履修 アドバイス		実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。 事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。		

年度・期	2023度 前期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 2年生
科目名	精神科作業治療学Ⅰ
担当	梶原利彦
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①精神科領域における治療概要を理解できる
- ②回復段階における作業療法の目的が理解できる

<情意領域(習慣・態度)>

- ③作業療法の実践に際し、必要なポイントを学習し習得することができる
- ④急性期を含めた早期に行われる作業療法の実践内容が理解できる
- ⑤回復期に行われる作業療法の実践内容が理解できる
- ⑥維持期や終末期に行われる作業療法の実践内容が理解できる
- ⑦各回復段階で作業療法が行われる場が理解できる

<技能領域(技術)>

- ⑧各疾患の作業療法について説明・模擬実践できる

●学習方略(講義計画)

(第1回)	講義内容説明 回復過程
(第2回)	治療過程 治療構造・治療的態度、関わり方・集団について
(第3回)	認知行動療法 精神科作業療法・精神科療養病棟の治療
(第4回)	疾患別作業療法①-1 統合失調症～急性期～
(第5回)	疾患別作業療法①-2 統合失調症～急性期～
(第6回)	疾患別作業療法①-3 統合失調症～回復期・維持期～
(第7回)	疾患別作業療法①-4 統合失調症～回復期・維持期～
(第8回)	疾患別作業療法① 気分障害
(第9回)	疾患別作業療法② てんかん
(第10回)	疾患別作業療法③ パーソナリティ障害
(第11回)	疾患別作業療法④ 広汎性発達障害・知的障害
(第12回)	疾患別作業療法⑤ 神経症性障害
(第13回)	疾患別作業療法⑥ 摂食障害
(第14回)	疾患別作業療法⑦ 物質依存性障害
(第15回)	まとめ

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 昼間主 2年生
科目名	精神科作業治療学Ⅰ
担当	梶原利彦
単位数	2単位

●評価

期末試験80%

課題提出20%

●教育資源(テキスト、その他)

【教科書】生活を支援する 精神障害作業療法学 第2版 急性期から地域実践まで

●注意点 その他

科目名		精神科作業治療学Ⅱ	
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数 2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分 必修
科目主担当		梶原 利彦	科目副担当 0
目 標	総合	精神科作業療法に関する概要や評価知識、技術を理解し、修得する	
	行動	①精神科分野における作業療法評価の目的を把握できる ②評価、面接、観察、情報収集を行える ③得られた情報から統合と解釈を行い、問題解決に向けたプログラム立案ができる	
講 義 計 画	第1回	講義内容説明沖縄県における精神科医療及び作業療法の歴史と現状	
	第2回	精神科作業療法の領域と十字する場・入院形態・診療報酬	
	第3回	回復段階における作業療法の目的（急性期・回復期・維持期）	
	第4回	精神科における作業療法評価①（目的、手段、方法）	
	第5回	精神科における作業療法評価②（情報収集について）	
	第6回	精神科における作業療法評価③－1（行動観察）	
	第7回	精神科における作業療法評価③－2（評価ツール）	
	第8回	精神科における作業療法評価④－1（能力評価）	
	第9回	精神科における作業療法評価④－2（観察記録からの能力評価）	
	第10回	精神科における作業療法評価⑤－1（統合と解釈、問題点の抽出）	
	第11回	精神科における作業療法評価⑤－2（統合と解釈、問題点の抽出 実践）	
	第12回	精神科における作業療法評価⑥－1（目標設定プログラムと立案）	
	第13回	精神科における作業療法評価⑥－2（プログラム選択方法）	
	第14回	事例検討（初期評価実践）	
	第15回	まとめ	
教科書		【教科書】 生活を支援する 精神障害作業療法学 第2版 急性期から地域実践まで 【参考文献】 作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学	
授業方法		講義	
評価方法		筆記試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		発達障害作業治療学Ⅰ		
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		加藤 綾乃	科目副担当	0
目 標	総合	小児における作業療法の基礎介入を理解し、各発達障害の特性と作業療法アプローチについて説明できる。 作業療法士国家試験問題程度の問題を解くことができる。		
	行動	①正常発達の理解をもとに、小児の作業療法の役割は何かを理解する ②発達理論やモデルに基づいた、小児の作業療法の評価・治療・援助の流れを理解する ③遊びの治療的意味や発達にとっての遊びの重要性を理解する ④各発達障害の特性について理解する ⑤発達に応じた評価や治療を選択することができる		
講義計画	第1回	小児の作業療法過程		
	第2回	発達の基礎		
	第3回	心身機能の発達過程（粗大運動）		
	第4回	心身機能の発達過程（粗大運動）		
	第5回	心身機能の発達過程（反射・反応）		
	第6回	心身機能の発達過程（反射・反応）		
	第7回	評価・治療・援助の理論とモデル、発達評価		
	第8回	発達評価（国家試験問題の傾向を知る）		
	第9回	感覚統合理論とアプローチ		
	第10回	中間まとめ		
	第11回	発達障害—広汎性発達障害1		
	第12回	発達障害—広汎性発達障害2		
	第13回	発達障害—注意欠如・多動症		
	第14回	発達障害—学習障害		
	第15回	総合まとめ		
教科書		イラストでわかる発達障害の作業療法		
授業方法		講義／グループワーク		
評定方法		筆記試験／課題		
履修 アドバイス		人間発達学の知識を基本ベースに各疾患の特徴や基礎介入などを学んでいきます。講義の前半は人間発達学に関する事項を行います。必要に応じて人間発達学で使用した教科書等を持参してください。		

科目名		発達障害作業治療学Ⅱ		
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		末吉 静香	科目副担当	0
目 標	総合	各発達障害の評価と治療の概念を把握する		
	行動	各疾患の評価を理解し説明できる 各疾患の治療を理解し説明できる		
講 義 計 画	第1回	発達障害領域の評価		
	第2回	姿勢・運動へのアプローチ・総論		
	第3回	脳性麻痺児への対応・アプローチ（片麻痺・両麻痺）		
	第4回	脳性麻痺児への対応・アプローチ（痙直型四肢麻痺）		
	第5回	脳性麻痺児への対応・アプローチ（アテトーゼ型）		
	第6回	重症心身障害児へのアプローチ		
	第7回	基本ADL支援		
	第8回	基本ADL支援		
	第9回	感覚統合機能に対するアプローチ		
	第10回	不器用な子どもに見られる感覚運動		
	第11回	不器用な子どもに見られる感覚運動		
	第12回	ポジショニングの基本的考え方		
	第13回	知的障害に対するアプローチ		
	第14回	対人援助職としてOTに求められるもの		
	第15回	まとめ		
教科書		0		
授業方法		講義／グループワーク		
評定方法		筆記試験／課題		
履修 アドバイス		0		

科目名		作業療法技術論Ⅰ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	澤田祥子/金城徳明
目 標	総合	PBLを通して、身体障害領域の作業療法の一連の流れを体験することができる。また、内省的実践家として成長することができる	
	行動	<認知領域>身体機能領域のCVAと大腿骨頸部骨折の各疾患の特徴を理解できる。そして、そのケースのニーズに対応する為の評価や治療を立案することができる。 <情意領域>グループワークを通して自他の意見を伝え・受け入れ討議できる。また、グループにおける自身の役割を理解し遂行できる。 <技能領域>各界の授業の振り返りを行い、取り組んだ内容をポートふおりをにすることができる。PBLを通して、ケースに必要な検査測定や治療が指導を受けながら実施できる。	
講義計画	第1回	オリエンテーション・情報提示：脳血管障害の症例 ～初期評価プランの立案①～	
	第2回	初期評価プランの立案②	
	第3回	評価実技練習①	
	第4回	評価実技練習②	
	第5回	評価実技練習③	
	第6回	評価実技 ～スキルチェック	
	第7回	情報提示② ～治療目標・治療プラン立案～	
	第8回	治療プラン立案	
	第9回	治療プラン立案	
	第10回	実技練習	
	第11回	情報提示①大腿骨頸部骨折症例 ～初期評価立案～	
	第12回	初期評価立案・実技練習	
	第13回	評価実技練習	
	第14回	情報提示② ～治療目標・治療プランの立案～	
	第15回	治療プランの立案	
教科書	身体障害領域に関するこれまで使用してきた教科書		
授業方法	講義、グループワーク、実技		
評定方法	毎回の授業時の課題、毎週提出するポートフォリオ		
履修アドバイス	臨床実習での患者様と関わる一連の流れを、ゆっくり順を追ってワークしていきます。グループワークを主に授業を進めていくので、メンバーで意見を出し合い、積極的に意見をまとめていきましょう。		

科目名		作業療法技術論Ⅱ	
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数 2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分 必修
科目主担当		梶原 利彦	科目副担当 吉田恭子/井上美和/大城圭
目 標	総合	・精神障害領域における作業療法の実際を理解し、実践できる ・内省的実践家として成長することができる	
	行動	①精神障害領域の統合失調症・認知症を主とした各疾患・回復段階（Sch）の特徴を説明でき、評価項目とその内容を説明できる。 ②実践を通して学んだことを他者と討議できる。 ③実践を通して作業療法評価(情報収集、各種面接)が実施でき面接に必要なコミュニケーションスキルを身に着ける。	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション精神科作業療法実践までの流れを説明	
	第2回	対象症例 2 疾患に必要な評価項目に関するグループワーク	
	第3回	PBL（統合失調症）多職種への情報収集に必要な内容・技術をまとめ発表	
	第4回	実技練習グループで多職種情報収集に関する練習を行う	
	第5回	PBL（統合失調症）インテーク面接に必要な情報を調べ発表	
	第6回	実技練習 インテーク面接	
	第7回	PBL(認知症) インテーク面接に必要な情報を調べ発表	
	第8回	実技練習 インテーク面接	
	第9回	PBL(認知症) 認知機能の検査（種類・適切なもの・方法など）について調べる	
	第10回	実技練習 認知機能検査	
	第11回	実技練習	
	第12回	実技試験	
	第13回	実技練習	
	第14回	実技試験	
	第15回	まとめ／実技試験	
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 生活を支援する精神障害作業療法 第二版 急性期から地域実践まで その他、精神医学（1年後期）精神OtⅠ（2年前期）精神OtⅡ（2年前期）で配布した資料など	
授業方法		講義	
評定方法		・実技試験（12～15回目実施）・講義終了後のリフレクションシート作成・最終の課題提出（ポートフォリオ毎提出）	
履修 アドバイス		※各自が真剣に取り組んだ分だけ、成長します ※実習や臨床に影響する科目ですので、積極的に取り組んで下さい	

科目名		作業療法技術論Ⅲ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	井上美和/梶原利彦/天久藍/吉田恭子/大城圭
目 標	総合	精神障がい領域および身体障がい領域における生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)を活用した作業療法実践にむけたプロセスを理解し、マネジメントシート・レジュメ作成できる	
	行動	①MTDLPの概要を理解し、各シートの使用方法について理解し、作成する ②レジュメ作成(考察)が専門用語を用い作成できる ③ICFの分類について知ることができる	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーションMTDLP復習	
	第2回	症例確認(技術論ⅠのCVA症例) MTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成	
	第3回	精神科領域オリエンテーション	
	第4回	事例検討(担当事例は裏面参照) 事例の追加情報配布演習:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作	
	第5回	症例検討MTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成	
	第6回	症例検討MTDLP:生活行為工程分析作成	
	第7回	グループワークMTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成	
	第8回	グループワークMTDLP:生活行為工程分析作成	
	第9回	症例検討MTDLPプランシート作成	
	第10回	症例検討MTDLPプランシート作成	
	第11回	グループワーク①MTDLP:プラン演習シート・マネジメントシート作成※プログラム立案(集団・個別)	
	第12回	グループワーク①MTDLP:プラン演習シート・マネジメントシート作成※プログラム立案(集団・個別)	
	第13回	症例検討レジュメ作成	
	第14回	症例検討レジュメ作成	
	第15回	演習レジュメ作成発表	
教科書		作業療法ゴールドマスタートテキスト 精神障害作業療法学 2版 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント 改訂第3版 講義資料	
授業方法		講義、演習、グループワーク	
評定方法		授業態度・課題提出・MTDLPマネジメントシート(グループ課題)・レジュメ A3(個人課題)・発表用スライド	
履修 アドバイス		※各自が真剣に取り組んだ分だけ、成長します ※実習や臨床に影響する科目ですので、積極的に取り組んで下さい	

年度・期	2023度 後期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 3年生
科目名	作業療法技術論Ⅳ
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

国家試験に合格できる知識を身につける

【SBOs】

< 認知領域(知識) >

- ①各講義のテーマに関連する基礎知識を知ることができる
- ②各講義のテーマに関連する臨床医学知識を知ることができる
- ③各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる

< 情意領域(習慣・態度) >

- ①講義時のグループワークにおいて、メンバーと協力して調べることができる
- ②調べたものをアウトプットし、メンバーに共有することができる

< 技能領域(技術) >

- ①学修した範囲を線を引く、また付箋紙などで自己学修項目として残すことができる
- ②検索スキルを身につける

●学習方略(講義計画)

(第1回)	井上	共通	精神領域(認知症)
(第2回)	金城	共通	運動学
(第3回)	金城	共通	運動学
(第4回)	金城	共通	中枢神経障害(高次脳機能障害)
(第5回)	井上	共通	精神(てんかん他)
(第6回)	澤田	専門	脊損・装具
(第7回)	澤田	専門	運動学
(第8回)	矢内	専門	脳血管障害・嚥下
(第9回)	天久	共通	生理学(消化器系)
(第10回)	吉田	共通	精神(気分障害)
(第11回)	矢内	専門	膠原病
(第12回)	井上	専門	精神(物質依存)
(第13回)	梶原	専門	精神(統合失調症)
(第14回)	澤田	専門	末梢神経障害
(第15回)	矢内	専門	ADL評価

年度・期	2023度 後期
学年	作業療法学科 昼間主 3年生
科目名	作業療法技術論Ⅳ
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●評価

筆記試験 : 100%

●教育資源(テキスト、その他)

1・2年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など

●注意点 その他

- ①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。
- ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。

年度・期	2023度 後期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 3年生
科目名	作業療法技術論Ⅴ
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

国家試験に合格できる知識を身につける

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①各講義のテーマに関連する基礎知識を知ることができる
- ②各講義のテーマに関連する臨床医学知識を知ることができる
- ③各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる

<情意領域(習慣・態度)>

- ①講義時のグループワークにおいて、メンバーと協力して調べることができる
- ②調べたものをアウトプットし、メンバーに共有することができる

<技能領域(技術)>

- ①学修した範囲を線を引く、また付箋紙などで自己学修項目として残すことができる
- ②検索スキルを身につける

●学習方略(講義計画)

(第1回)	加藤	共通	中枢神経
(第2回)	梶原	共通	統合失調症
(第3回)	安田	共通	整形外科学
(第4回)	安田	共通	整形外科学
(第5回)	加藤	共通	末梢神経
(第6回)	澤田	専門	切断・義肢
(第7回)	井上	専門	認知症
(第8回)	金城	共通	生理学(循環器系)
(第9回)	金城	専門	循環器系
(第10回)	梶原	専門	自閉・ADHD
(第11回)	西村	専門	感覚・高次脳機能評価
(第12回)	西村	専門	感覚・高次脳機能評価
(第13回)	吉田	共通	精神(神経症)
(第14回)	矢内	OT専門	各種保険・PTOT法
(第15回)	吉田	専門	神経症

年度・期	2023度 後期
学年	作業療法学科 昼間主 3年生
科目名	作業療法技術論Ⅴ
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●評価

筆記試験 : 100%

●教育資源(テキスト、その他)

1・2年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など

●注意点 その他

- ①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。
- ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。

年度・期	2023度 後期
学科・学年	作業療法学科 昼間主 3年生
科目名	作業療法技術論VI
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

国家試験に合格できる知識を身につける

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①各講義のテーマに関連する基礎知識を知ることができる
- ②各講義のテーマに関連する臨床医学知識を知ることができる
- ③各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる

<情意領域(習慣・態度)>

- ①講義時のグループワークにおいて、メンバーと協力して調べることができる
- ②調べたものをアウトプットし、メンバーに共有することができる

<技能領域(技術)>

- ①学修した範囲を線を引く、また付箋紙などで自己学修項目として残すことができる
- ②検索スキルを身につける

●学習方略(講義計画)

(第1回)	大城	共通	精神医学総論
(第2回)	天久	共通	生理学(泌尿器)
(第3回)	天久	共通	生理学(循環器)
(第4回)	吉田	共通	防衛機制等
(第5回)	大城	共通	精神医学評価
(第6回)	澤田	共通	解剖学
(第7回)	西村	共通	生理学(呼吸器)
(第8回)	梶原	共通	精神(アルコール依存症)
(第9回)	西村	専門	生理学(呼吸器)
(第10回)	吉田	専門	気分障害
(第11回)	加藤	共通	人間発達学
(第12回)	澤田	専門	RA・骨折
(第13回)	西村	専門	脳性麻痺
(第14回)	加藤	専門	発達OT
(第15回)	矢内	専門	老年期・内科疾患

年度・期	2023度 後期
学年	作業療法学科 昼間主 3年生
科目名	作業療法技術論VI
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●評価

筆記試験 : 100%

●教育資源(テキスト、その他)

1・2年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など

●注意点 その他

- ①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。
- ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。

科目名		地域作業療法学 I		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生		単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野		必選区分	必修
科目主担当	矢内 和香		科目副担当	井上 美和
目 標	総合	老年期障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療および評価を学ぶ		
	行動	<認知領域（知識）> ①老年期障害の一般疾患特性について説明できる②病因、症候について説明できる③診断、評価、治療について説明できる④認知症の症候と作業療法の実践について説明できる⑤身体障害領域における法律や地域支援について説明できる <情意領域（習慣・態度）> ①高齢者の心身の特徴、リスクについて説明できる②認知症の特徴を踏まえた対応の仕方について挙げることができる <技能領域（技術）> ①高齢期の作業療法の評価、治療介入方法について説明、実施ができる②各疾患に応じた地域支援を選択しプログラムを検討することができる		
講義計画	第1回	高齢者を取りまく環境・特徴的な症候と疾患について		
	第2回	加齢に伴う生理的機能・運動機能の変化		
	第3回	老年期障害について		
	第4回	老年期にみられる疾患と廃用症候群について		
	第5回	老年期作業療法評価・機能訓練について		
	第6回	社会福祉関連について		
	第7回	障害を持つ人への支援制度について		
	第8回	障害を持つ人への支援制度について、まとめ		
	第9回	認知症の症候学①（診断/MCI）		
	第10回	認知症の症候学②（4つの主な認知症）		
	第11回	認知症の症候学③（薬物療法I）		
	第12回	認知症の症状		
	第13回	認知症の理解（評価・目標）		
	第14回	認知症の作業療法の実践①		
	第15回	認知症の作業療法の実践②、まとめ		
教科書		1.事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 日本作業療法士協会（著） 医歯薬 2.標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 第4版 医学書院 3.標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版 医学書院 〈参考図書〉 1. 標準作業療法学 高齢期作業療法学第3版 医学書院(著) 2. 日本作業療法士協会 映像教材		
授業方法		講義、演習、グループワーク		
評定方法		・単位認定試験(筆記：期末試験95、成果物：まとめ資料修正・復習5%)・出席状況、授業態度		
履修アドバイス		① 配布資料をipad内のクラスルームに添付しますので毎回必ず持参してください。 ② タッチペンなどの周辺機器を準備してください。 ③ 10回目、15回目は「まとめ」をします。配布資料をすべて持参してください。 ④ 講義へは適切な身なり※積極的に参加してください。 ※1室内での帽子は外してください(理由がある場合は申し出ること)など。		

科目名		地域作業療法学Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	吉田 恭子
目 標	総合	地域リハビリテーションの理念や現状を学び、作業療法士の役割を理解する。	
	行動	①地域社会で生活するための環境要因を列挙で社会保障制度などを理解する ②各疾患に併せた地域支援・作業療法の役割を列挙し理解する。 ③生活行為向上マネジメントの概要や考え方について学習し、模擬患者を通して演習シートを用いマネジメントができる	
講 義 計 画	第1回	身体障害作業療法における地域支援	
	第2回	生活行為向上マネジメントについて①	
	第3回	生活行為向上マネジメントについて②	
	第4回	生活行為向上マネジメントについて③	
	第5回	生活行為向上マネジメントについて④	
	第6回	生活行為向上マネジメントについて⑤	
	第7回	生活行為向上マネジメントについて⑥	
	第8回	生活行為向上マネジメントについて⑦	
	第9回	生活行為向上マネジメントについて⑧	
	第10回	生活行為向上マネジメントについて⑨	
	第11回	身体領域・生活行為向上マネジメントのまとめ	
	第12回	社会情勢の変化と法改正② 精神障害領域	
	第13回	精神科作業療法における地域作業療法①	
	第14回	精神科作業療法における地域作業療法②	
	第15回	精神科作業療法における地域作業療法③	
教科書		その他参考図書：①社会福祉概論 中央法規 ②事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 日本作業療法士協会（著） ③配布資料 ④作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント改定第3版	
授業方法		講義	
評定方法		・筆記試験（期末試験90％）， ・まとめ資料修正・復習（10％）・出席状況，授業態度	
履修 アドバイス		① 症例に関しては個人情報に留意し、情報の取り扱いに気をつけること ② 15回目は、今まで配布した資料をすべて持参すること。	

科目名		実習 I（見学実習）		
履修時期		作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位／90時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		梶原 利彦	科目副担当	吉田 恭子
目 標	総合	0		
	行動	0		
講 義 計 画		①10日間の学外実習を行う		
		②指導者の下、臨床現場の作業療法の流れを体験する		
		③実施要項を熟読すること		
		④指定された課題について成果物を学院に提出すること		
		⑤思いやりと敬意の念を持ち実習に臨むこと		
		⑥疑問や問題が生じたときは、指導者に相談すること		
		⑦必要に応じて報告、連絡すること		
		⑧学外実習期間が終了した後は、学内にて課題に取り組む		
教科書				
授業方法		学外実習 学内課題		
評定方法		実習・課題		
履修 アドバイス		0		

科目名		実習Ⅱ（地域実習）		
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	1単位／45時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		宗像 暁美	科目副担当	西村 昭寛
目 標	総合	0		
	行動	0		
講 義 計 画		①5日間の学外実習を行う		
		②指導者の下、臨床現場の作業療法の流れを体験する		
		③実施要項を熟読すること		
		④指定された課題について成果物を学院に提出すること		
		⑤思いやりと敬意の念を持ち実習に臨むこと		
		⑥疑問や問題が生じたときは、指導者に相談すること		
		⑦必要に応じて報告、連絡すること		
		⑧学外実習期間が終了した後は、学内にて課題に取り組む		
教科書				
授業方法		学外実習 学内課題		
評定方法		実習・課題		
履修 アドバイス		0		

科目名		実習Ⅲ（評価実習）			
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生		単位/時間数	2単位／90時間
科目区分		専門分野		必選区分	必修
科目主担当		宗像 暁美		科目副担当	西村 昭宣
目 標	総合	0			
	行動	0			
講 義 計 画		①10日間の学外実習を行う			
		②指導者の下、臨床現場の作業療法の流れを体験する			
		③実施要項を熟読すること			
		④指定された課題について成果物を学院に提出すること			
		⑤思いやりと敬意の念を持ち実習に臨むこと			
		⑥疑問や問題が生じたときは、指導者に相談すること			
		⑦必要に応じて報告、連絡すること			
		⑧学外実習期間が終了した後は、学内にて課題に取り組む			
教科書					
授業方法		学外実習 学内課題			
評定方法		実習・課題			
履修 アドバイス		0			

科目名		実習Ⅳ（総合実習）	
履修時期		作業療法学科 昼間主 3年生	単位/時間数 10単位／450
科目区分		専門分野	必選区分 必修
科目主担当		澤田 祥子	科目副担当 井上 義和
目 標	総合	①指導者の元で対象者に必要な評価技能を身につける ②対象者の改善課題の整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける ③プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける ④プログラム効果を判定する能力を身につける	
	行動	実習指導者をモデルとし、その臨床技能の真似ができ汎化できること、および実習指導者の臨床家庭を理解し解説できる	
講 義 計 画		①50日間の学外実習を行う	
		②指導者の下、臨床現場の作業療法の流れを体験する	
		③実施要項を熟読すること	
		④指定された課題について成果物を学院に提出すること	
		⑤思いやりと敬意の念を持ち実習に臨むこと	
		⑥疑問や問題が生じたときは、指導者に相談すること	
		⑦必要に応じて報告、連絡すること	
		⑧学外実習期間が終了した後は、学内にて課題に取り組む	
教科書			
授業方法		学外実習 学内課題	
評定方法		実習・課題	
履修 アドバイス		0	

科目名		実習Ⅴ（総合実習）	
履修時期		作業療法学科 昼間主 3年生	単位/時間数 8単位／360
科目区分		専門分野	必選区分 必修
科目主担当		澤田 祥子	科目副担当 井上 美和
目 標	総合	①対象者の改善課題の整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける ③プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける ④プログラム効果を判定する能力を身につける	
	行動	実習指導者をモデルとし、その臨床技能の真似ができ汎化できること、および実習指導者の臨床家庭を理解し解説できる	
講 義 計 画		①40日間の学外実習を行う	
		②指導者の下、臨床現場の作業療法の流れを体験する	
		③実施要項を熟読すること	
		④指定された課題について成果物を学院に提出すること	
		⑤思いやりと敬意の念を持ち実習に臨むこと	
		⑥疑問や問題が生じたときは、指導者に相談すること	
		⑦必要に応じて報告、連絡すること	
		⑧学外実習期間が終了した後は、学内にて課題に取り組む	
教科書			
授業方法		学外実習 学内課題	
評定方法		実習・課題	
履修 アドバイス		0	

科目名		リハビリテーションセミナー			
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間	
科目区分		専門分野	必選区分	必修	
科目主担当		宗像 暁美	科目副担当	西村 昭宣	
目 標	総合	対象者との関わりを通して、作業療法の実際を理解し、プランニングすることができる。			
	行動	<認知領域（知識）>①疾患特性や、地域で活用できる各種制度の理解を深める。<情意領域（習慣・態度）>①各回のテーマに沿った資料・教科書を準備する②グループメンバーの意見を取り入れ、またアドバイスしあうことができる。③調べ学習の時間では、自分の担当について責任をもって取り組める。<技能領域（技術）>①実践を通して作業療法評価（情報収集、各種面接）が実施できる。②コミュニケーションスキルを身につける。③プランニングした内容を、発表・報告することが出来る。			
講義計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	オリエンテーション			
	第3回	疾患学習①脊損とは			
	第4回	疾患学習②脊損の作業療法			
	第5回	評価立案①評価の選択・目的を考える			
	第6回	評価立案②評価の実技練習			
	第7回	評価実施①各評価の実施			
	第8回	評価実施②評価のまとめ、情報共有			
	第9回	グループワーク①各グループのテーマを決定する			
	第10回	グループワーク②各グループでスケジュールをたてる			
	第11回	グループワーク③地域で使える各種制度を調べる			
	第12回	グループワーク④地域で使える各種制度を調べる			
	第13回	グループワーク⑤現場検証など			
	第14回	グループワーク⑥現場検証など			
	第15回	報告会			
教科書		必要な教科書			
授業方法		講義、演習、グループワーク			
評定方法		報告会			
履修 アドバイス		・対象者に関しては個人情報に留意し、情報の取り扱いに気をつけること ・リスク管理に気を付けること			

科目名		OTセミナー I	
履修時期		作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数 2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分 必修
科目主担当		梶原 利彦	科目副担当 金城 徳明
目 標	総合	・基礎3科目(解剖・生理・運動学)について、過去に出題された国家試験問題をベースにグループの仲間同士で互いに解説し、理解を深める。	
	行動	基礎3科目について、過去の国家試験問題について学生同士で詳細に解説できる。答えの導き方、過程について説明することができる。2年生での学習につながるよう意識づけを行う。	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション(基礎固めの解説、グループ学習)(骨・関節・筋・運動学よりp55から5問)	
	第2回	基礎固め(p159-p164)	
	第3回	基礎固め(p159-p164)	
	第4回	基礎固め(p431-)	
	第5回	基礎固め(p431-)	
	第6回	基礎固め(p243-)	
	第7回	基礎固め(p243-)	
	第8回	基礎固め(p277-)	
	第9回	基礎固め(p277-)	
	第10回	基礎固め(p347-)	
	第11回	基礎固め(p347-)	
	第12回	基礎固め(p313-)	
	第13回	基礎固め(p313-)	
	第14回	基礎固め(p495-)	
	第15回	基礎固め(テスト対策)	
教科書		PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング	
授業方法		調べ学習、グループワーク	
評定方法		筆記試験	
履修 アドバイス		・基礎3科目(解剖・生理・運動学)について、過去に出題された国家試験問題をベースにグループの仲間同士で互いに解説し、理解を深める。	

科目名		OTセミナーⅡ（前期）		
履修時期		作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		宗像 暁美	科目副担当	0
目 標	総合	・過去に出題された国家試験問題をベースにグループの仲間同士で互いに解説し、理解を深める。		
	行動	過去の国家試験問題について学生同士で詳細に解説できる。答えの導き方、過程について説明することができる。3年生での学習につながるよう意識づけを行う。		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション国試対策①		
	第2回	国試対策②		
	第3回	国試対策③		
	第4回	国試対策④		
	第5回	国試対策⑤		
	第6回	国試対策⑥		
	第7回	国試対策⑦		
	第8回	国試対策⑧		
	第9回	国試対策⑨		
	第10回	国試対策⑩		
	第11回	国試対策⑪		
	第12回	国試対策⑫		
	第13回	国試対策⑬		
	第14回	国試対策⑭		
	第15回	国試対策⑮		
教科書		PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 必修ポイント		
授業方法		調べ学習、グループワーク		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス		・過去に出題された国家試験問題をベースにグループの仲間同士で互いに解説し、理解を深める。		

科目名		OTセミナーⅡ（後期）		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生		単位/時間数	2単位／60時間
科目区分	専門分野		必選区分	必修
科目主担当	宗像 暁美		科目副担当	0
目 標	総合	・過去に出題された国家試験問題をベースにグループの仲間同士で互いに解説し、理解を深める。		
	行動	過去の国家試験問題について学生同士で詳細に解説できる。答えの導き方、過程について説明することができる。3年生での学習につながるよう意識づけを行う。		
講 義 計 画	第1回	国試対策⑯		
	第2回	国試対策⑰		
	第3回	国試対策⑱		
	第4回	国試対策⑲		
	第5回	国試対策⑳		
	第6回	国試対策㉑		
	第7回	国試対策㉒		
	第8回	国試対策㉓		
	第9回	国試対策㉔		
	第10回	国試対策㉕		
	第11回	国試対策㉖		
	第12回	国試対策㉗		
	第13回	国試対策㉘		
	第14回	国試対策㉙		
	第15回	国試対策㉚		
教科書		PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 必修ポイント		
授業方法		調べ学習、グループワーク		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス		・過去に出題された国家試験問題をベースにグループの仲間同士で互いに解説し、理解を深める。		

科目名		OTセミナーⅢ（前期）	
履修時期		作業療法学科 昼間主 3年生	単位/時間数 2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分 選択必修
科目主担当		澤田 祥子	科目副担当 井上美和
目 標	総合	・ 国家試験問題をベースにグループの仲間同士で互いに解説し、理解を深める。 ・ 卒後の臨床技能を獲得するために、実習においてその知識や技術を説明・実施することができる。	
	行動	基礎3科目をベースに国家試験対策として、学生同士で理解し、解説することができる。 実習対策として、調べ学習やグループ学習を通して知識や技術を習得する出来る。	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	実習対策①調べ学習	
	第3回	実習対策②調べ学習	
	第4回	実習対策③調べ学習	
	第5回	実習対策④調べ学習	
	第6回	実習対策⑤実技練習	
	第7回	実習対策⑥実技練習	
	第8回	実習対策⑦実技練習	
	第9回	実習対策⑧実技練習	
	第10回	実習対策⑨ゼミナール	
	第11回	実習対策⑩ゼミナール	
	第12回	実習対策⑪ゼミナール	
	第13回	実習対策⑫ゼミナール	
	第14回	OSCE①	
	第15回	OSCE②	
教科書		領域ごとに必要な教科書	
授業方法		調べ学習、グループワーク	
評定方法		授業態度、出席率、実技試験	
履修 アドバイス		・ グループの仲間同士で理解を深める。	

科目名		OTセミナーⅢ（後期）	
履修時期	作業療法学科 昼間主 3年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	澤田 祥子	科目副担当	〇
目 標	総合	・過去に出題された国家試験問題をベースにグループの仲間同士で互いに解説し、理解を深める。	
	行動	基礎3科目について、過去の国家試験問題について学生同士で詳細に解説できる。答えの導き方、過程について説明することができ、国家試験本番に向けての準備を行う。	
講 義 計 画	第1回	国試対策⑩	
	第2回	国試対策⑪	
	第3回	国試対策⑫	
	第4回	国試対策⑬	
	第5回	国試対策⑭	
	第6回	国試対策⑮	
	第7回	国試対策⑯	
	第8回	国試対策⑰	
	第9回	国試対策⑱	
	第10回	国試対策⑲	
	第11回	国試対策⑳	
	第12回	国試対策㉑	
	第13回	国試対策㉒	
	第14回	国試対策㉓	
	第15回	国試対策㉔	
教科書	PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 必修ポイント		
授業方法	調べ学習、グループワーク		
評定方法	筆記試験		
履修 アドバイス	・過去に出題された国家試験問題をベースにグループの仲間同士で互いに解説し、理解を深める。		

科目名		基礎総合		
履修時期		作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		金城 徳明	科目副担当	澤田 祥子
目 標	総合	3科目（生理・運動・解剖）の知識を深めることができる。		
	行動	<認知領域（知識）>①解剖学の知識を深めることができる②生理学の知識を深めることができる③運動学の知識を深めることができる<情意領域（習慣・態度）>④グループ学習に必要な準備をし、積極的に参加することができる⑤グループ学習法を身につけ、学習効果を高めることができる<技能領域（技術）>⑥必要に応じ教科書を調べ、答えを導くことができる		
講 義 計 画	第1回	骨・関節・筋(骨の基礎)		
	第2回	骨・関節・筋(骨の連結)		
	第3回	骨・関節・筋(筋の構造と機能)		
	第4回	まとめ・確認テスト		
	第5回	運動学(関節)		
	第6回	運動学(筋の作用)		
	第7回	運動学(姿勢)		
	第8回	まとめ・確認テスト		
	第9回	神経・感覚(神経の興奮伝導)		
	第10回	神経・感覚(中枢神経系)		
	第11回	神経・感覚(末梢神経)		
	第12回	まとめ・確認テスト		
	第13回	神経・感覚(反射と筋活動)		
	第14回	神経・感覚(感覚)		
	第15回	まとめ・確認テスト		
教科書		PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング		
授業方法		講義		
評定方法		筆記試験(3回実施)		
履修 アドバイス		基礎3科目(解剖・生理・運動学)を理解するための講義です。日頃の講義にもしっかりと参加しましょう。		

2023 作業療法学科 夜間主シラバス

学科・学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	文学
担当	比嘉 弘美
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

多くの文学作品に触れ、鑑賞することを通して人生をより豊かに生きる一助とする

【SBOs】

- ①各回の授業における様々な文章を読解し、文章力を養うための国語学習の基礎を確認する。
- ②生きた言葉や地域の言葉を学習し、コミュニケーション力を高め、表現を楽しむことができる。

●学習方略(講義計画)

- (第1回) ショートスピーチによる自己紹介
「文学とは何か」「なぜ文学を学ぶ」「文学作品の世界とは」などについて学習する
- (第2回) 骨に関する漢字
象徴的表現を学修する
- (第3回) 文章作成「句読点」「接続表現」の練習
沖縄文学の紹介そのその歴史的背景について
- (第4回) 接続表現・比喻表現の練習
「語り口調の特徴」と「語り手の特徴」について学習
- (第5回) 漢字と語彙について(人体についての漢字)
「地の文」「会話の文」の確認
- (第6回) 間違いやすい言葉、日常よく使う漢字
詩の鑑賞
- (第7回) 敬語表現の基礎知識、日常よく使う漢字
俳句・短歌の鑑賞
- (第8回) 人体に関する語彙と感じ
俳句・短歌の鑑賞
- (第9回) 人体に関する方言、琉球方言の概説①
黄金言葉紹介
- (第10回) 琉球方言②の練習
琉歌・組踊・沖縄芝居の概説と鑑賞
- (第11回) 琉球方言3の練習
山之内篁の詩を読む
- (第12回) 1分間スピーチのテーマを決め構成を考える
DVD[仕事の流儀]の鑑賞と感想
- (第13回) 1分間スピーチの作成
- (第14回) スピーチ発表
評価表の作成・感想
- (第15回) まとめ

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	文学
担当	比嘉 弘美
単位数	2単位

評定方法

期末試験

●教育資源(テキスト、その他)

配布資料・教材DVD・CDなど

●注意点 その他

※講義日程は進行表で確認してください

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

講義内容は、進行状況などで変更がある場合があります。

科目名		生物学	
履修時期	作業療法学科 夜間主1年生	単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	宮里 幸利	科目副担当	
目 標	総合	生物の基本的な原理・法則への理解を深め、専門への深化につなげる。	
	行動	各回の講義テーマについて、理解できる。	
講 義 計 画	第1回	ガイダンス・生物の共通性 ～細胞・DNA・ATP・恒常性～	
	第2回	生物の多様性と系統分類	
	第3回	細胞の多様性と共通性 ～細胞の種類・大きさ・構造～	
	第4回	顕微鏡	
	第5回	代謝と生物のエネルギー ～同化・異化・有機物・無機物～	
	第6回	ATPの構造とエネルギー、酵素の種類と働き	
	第7回	光合成のしくみ ～4つの反応～	
	第8回	呼吸の仕組み ～解糖系・クエン酸回路・電子伝達系～	
	第9回	血液と組織と働き	
	第10回	メンデル遺伝と血液型の遺伝	
	第11回	循環系とその種類 ～心臓のつくり、血管系、リンパ系～	
	第12回	野外観察・実習	
	第13回	復習①	
	第14回	復習②	
	第15回	まとめ	
教科書		理解しやすい生物基礎	
授業方法		講義	
評定方法		筆記試験	
履修 アドバイス		配布資料を基に進めていきます。毎回教科書も持参すること。	

科目名		情報処理	
履修時期		作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数 2単位／30時間
科目区分		基礎分野	必修区分 必修
科目主担当		鈴木 啓	科目副担当 0
目 標	総合	在学中の専門課程や卒業後の就職先においてコンピュータを活用するためのWord、Excel、PowerPointの基礎を習得することができる。基本的な研究方法論・基本の統計法を理解し、研究計画を立てられるようになること	
	行動	①作業療法の専門職の研究・発展に必要な研究基礎知識を習得する②作業療法効果の明示方法を理解する③課題物作成に必要なMicrosoft Officeの基本的な操作方法を理解する④文献レビューを実施し、研究論文を読み解くことができる⑤Microsoft officeを使い、情報を視覚化し、伝える技術を身に付ける	
講 義 計 画	第1回	タブレット操作方法①（グーグル機能について）	
	第2回	タブレット操作方法②（Goodnoteについて）	
	第3回	Microsoft Office ～ word の使い方について①～	
	第4回	Microsoft Office ～ word の使い方について②～	
	第5回	Microsoft Office ～ Excel の使い方について①～	
	第6回	Microsoft Office ～ Excel の使い方について②～	
	第7回	Microsoft Office ～ Power Point の使い方について～	
	第8回	研究とは？ 気になること・疑問に思うことは何？	
	第9回	文献検索とレビューについて 先行研究の探し方	
	第10回	グループディスカッション	
	第11回	作業療法の効果判定について 統計のお話し①（基本統計）	
	第12回	作業療法の効果判定について 統計のお話し②（群間比較）	
	第13回	作業療法の効果判定について 統計のお話し③（多重比較）	
	第14回	作業療法の効果判定について 統計のお話し④（相関関係）	
	第15回	グループ発表	
教科書		適宜配布標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論（医学書院）	
授業方法		講義、演習、グループワーク	
評定方法		レポート課題・成果物 80%、講義受講状況20%	
履修 アドバイス		PC操作に慣れ、情報の整理ができるよう日頃からタブレットPCに触れていきましょう	

年度・期	R5年度 前期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	医学英語
担当	吉田 恭子
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

リハビリテーション・作業療法場面で使用する医学英単語を理解し、簡単な表現を理解し活用する事ができる。

It can understand medical English words used in rehabilitation and occupational therapy situations, and can use simple expressions.

【SBOs】

<認知領域(知識)>

①医療現場で、使用する英単語、表現を理解する

It can understand medical English words used in rehabilitation and occupational therapy situations

<情意領域(習慣・態度)>

①英語を学ぶことを通して世界のリハビリテーション、作業療法に関心を持つことができる。

You can be interested in World rehabilitation and occupational therapy through learning medical English

②リハビリテーションの現場でよく用いる英語表現の使用の習慣化

Make it habit to use English expressions often used in rehabilitation

<技能領域(技術)>

①興味・関心がある医学英語資料を調べ、グループでパワーポイントを用い行える。

You can research something medical English materials of your interest and have presentation using PowerPoint

②医療現場で、使用する英単語、表現を理解し、使えるようになる

Use and Understand English words and expressions used in medical field

●学習方略(講義計画)

	(第1回)	Self-introduction, progress confirmation, confirmation test
	(第2回)	Varius medical courses / Medical English words Name of body part Examination (check your English level)
	(第3回)	Check Medical English words (Mini test) (1) Posture and position / Plane and direction
	(第4回)	Range of motion (ROM)
	(第5回)	Check Medical English words (Mini test) (2)(3) The structure of the human body (The skeletal muscular nervous System)
	(第6回)	English words that are used in the state examination of OT (physical others)
	(第7回)	Check Medical English words (Mini test) (4)(5) English words that are used in the state examination of OT (menta othersl)
	(第8回)	Disease, Disorder, Pathological condition (1)
	(第9回)	Check Medical English words (Mini test) (6)(7) Disease, Disorder, Pathological condition (2)
	(第10回)	Medical abbreviations
	(第11回)	Check Medical English words (Mini test) 8,9 Global medical and rehabilitation field and cerrent status
	(第12回)	Explain how to make a presentation Prepare presentation (each groups)
	(第13回)	generalization Check Medical English words (Mini test) 10 Final Report
	(第14回)	Presentation by group (1)
	(第15回)	Presentation by group (2) generalization

年度・期	R5年度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	医学英語
担当	吉田 恭子
単位数	2単位

●評価

MINI Examination①~⑩(35%) Final Report & Presentation with English (25%)
term-end exam(40%)

●教育資源(テキスト、その他)

Distribution prints / Movies (Title undecided) / Dictionary

●注意点 その他

※講義日程は進行表で確認してください

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容・小テスト範囲などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

原則、小テストの再試験・再受験はありません。

学科・学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	心理学
担当	大城 貞則
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

知覚、学習と記憶、言語、思考、問題解決等を包括する認知心理学をはじめ、認知発達及び社会発達、パーソナリティ、社会心理学といった主な領域を中心に、心理学全般における理解と基礎知識を習得する。

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①心の機能について説明できる
- ②心の発達について説明できる
- ③心理検査の種類と概要を説明できる

<情意領域(習慣・態度)>

- ①対人援助をおこなう上で求められる基本的な心理学的知識を幅広く修得することができるようになる

<技能領域(技術)>

- ①授業で紹介した様々な心理学的知見を日常生活の問題に結び付けて論述できるようになる。

●学習方略(講義計画)

- (第1回) 感覚と知覚①
- (第2回) 感覚と知覚②
- (第3回) 感情と情緒
- (第4回) 欲求と動機①
- (第5回) 欲求と動機②
- (第6回) 学習
- (第7回) 記憶
- (第8回) 性格
- (第9回) 知能
- (第10回) 無意識、精神分析
- (第11回) 臨床心理学
- (第12回) 発達①
- (第13回) 発達②
- (第14回) 社会心理
- (第15回) まとめ

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	心理学
担当	大城 貞則
単位数	2単位

評定方法

期末試験

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

イラストレート 心理学入門 斉藤勇 第3版 誠信書房

●注意点 その他

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

講義内容は、進行状況などで変更がある場合があります。

※講義日程は進行表で確認してください

年度・期	2023度 後期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	保健体育 I
担当	瑞慶覧 健
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】 体育の理論と実技を知る 【SBOs】 ①運動負荷後の身体の変化に気付く ②スポーツレクリエーションの種類を知る

●学習方略(講義計画)

(第1回)	オリエンテーション 自己紹介 スポーツアンケート作成 体育概要・計画・認定・注意事項
(第2回)	トレーニングマシン名称と動作解析
(第3回)	グランドゴルフ 予選ラウンド8H2ラウンド
(第4回)	グランドゴルフ 決勝ラウンド 結果報告
(第5回)	ソフトバレーボール アンダーオーバーパスの練習 レシーブの仕方
(第6回)	ソフトバレーボール リーグ戦 3セットマッチ
(第7回)	バレーボール チーム分け トーナメント式
(第8回)	バレーボール スキルテスト オーバー・アンダートス
(第9回)	バドミントン スマッシュとクリア ネット際のヘアピン
(第10回)	バドミントン ダブルス 15点2セットマッチ
(第11回)	バスケットボール スクエアパス、シュート練習
(第12回)	バスケットボール ルール説明、チーム分け、ゲーム
(第13回)	トレーニング基本原則 筋肉の構造 伸張反射について
(第14回)	ゴルフ ゴルフスイングにおけるメカニズムと「てこの原理」
(第15回)	まとめ

●評価

・競技成績
・期末試験

●教育資源(テキスト、その他)

【教科書】
【参考文献】

●注意点 その他

--

年度・期	2023年度 前期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	実践コミュニケーション
担当	梶原利彦
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

「人と関わることは楽しい」と思うことができる。
「人間関係を通じて、自分が成長できた」と思えるコミュニケーションが取れる。
心と心の通じ合いによる、暖かな人間理解を目指す

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①社会人として必要なコミュニケーションスキルについて理解することができる
- ②自己理解を深め、自身のコミュニケーションの特徴に気づく
- ③良質なコミュニケーションがもたらす円滑な人間関係が、医療従事者として必要なことを理解する

<情意領域(習慣・態度)>

- ①自分の意見や考えをもち、それらを伝えることができる
- ②様々な意見や考えに対して、柔軟に対応する姿勢を持つ
- ③社会的マナーを基礎として、医療従事者としてのコミュニケーションへ発展させる土台を作る

<技能領域(技術)>

- ①自分を理解し、自己肯定感を持つ
- ②対話のためのスキルアップ(話す力・聞く力)
- ③標準的なスキルをもとに、TPOに応じた対応を考えることができる

●学習方略(講義計画)

- | | |
|--------|---------------------------------|
| (第1回) | オリエンテーション コミュニケーションとは？ |
| (第2回) | 自己理解を深める |
| (第3回) | コミュニケーション力を高める(非言語コミュニケーション) |
| (第4回) | コミュニケーション力を高める(言語コミュニケーション) |
| (第5回) | コミュニケーション力を高める(聞く力) |
| (第6回) | コミュニケーション力を高める(実践・面接) |
| (第7回) | 対人関係技能(頼む) |
| (第8回) | 対人関係技能(断る) |
| (第9回) | 感情コントロール(不安) |
| (第10回) | 感情コントロール(怒り) |
| (第11回) | 対人関係技能(相手の気持ちを考える) |
| (第12回) | 対人関係技能(相手への気遣い) |
| (第13回) | 社会の中で必要なコミュニケーション能力(学校・日常生活場面) |
| (第14回) | 社会の中で必要なコミュニケーション能力(社会人としてのマナー) |

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	実践コミュニケーション
担当	梶原利彦
単位数	2単位

●評価

レポート課題 50点

授業参加の姿勢 50点

●教育資源(テキスト、その他)

PT・OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド第二版 山口美和 (医学書院)

大人の自閉症スペクトラムのためのコミュニケーションマニュアル 加藤進昌 (星和書店)

(上記は参考資料であり、教科書指定書籍ではない)

●注意点 その他

動きやすい服装で参加してください

学科・学年	2023年度 前期 作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	解剖学 I
担当	川口 亮
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

正常な生体の構造を覚える

【SBOs】

<認知領域(知識)>

①人体構造を理解する

<情意領域(習慣・態度)>

① 人体構造機能を理解し身に着ける

<技能領域(技術)>

①人体の構造を示す分類や名称をいえる

②内臓の名称と所在箇所を説明できる

③血管の名称と所在箇所をいえる

●学習方略(講義計画)

- | | |
|--------|-------------------|
| (第1回) | 内臓学とは
消化器系① |
| (第2回) | 内臓学
消化器系② |
| (第3回) | 内臓学
消化器系③ |
| (第4回) | 内臓学
消化器系④ 肝臓脾臓 |
| (第5回) | 内臓学
消化器系⑤腹膜 |
| (第6回) | 内臓学
呼吸器系 |
| (第7回) | 内臓学
呼吸器系・泌尿器系 |
| (第8回) | 内臓学
泌尿器系 |
| (第9回) | 内臓学
生殖器系 |
| (第10回) | 内臓学
生殖器系・内分泌系 |
| (第11回) | 内臓学
内分泌系・循環器系 |
| (第12回) | 内臓学
循環器系 |
| (第13回) | 内臓学
循環器系 |
| (第14回) | 内臓学
プレテスト |
| (第15回) | まとめ |

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	解剖学 I
担当	川口 亮
単位数	2単位

評価方法

期末テスト

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

配布プリント、標準理学療法・作業療法専門基礎分野 解剖学 第5版

●注意点 その他

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

※講義日程は進行表で確認してください

講義内容は、進行状況などで変更がある場合があります。

年度・期	2020年度 前期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	解剖学Ⅱ
担当	川口 亮
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

正常な筋・骨の構造を理解する

【SBOs】

<認知領域(知識)>

①人体構造を理解する

<情意領域(習慣・態度)>

① 人体構造機能を理解し身に着ける

<技能領域(技術)>

①人体の構造を示す分類や名称をいえる

②内臓の名称と所在箇所を説明できる

③血管の名称と所在箇所をいえる

●学習方略(講義計画)

- | | | |
|--------|--------------------|-----------|
| (第1回) | 骨学総論 | |
| (第2回) | 関節と靭帯 総論 | |
| (第3回) | 関節と靭帯 総論 | |
| (第4回) | 骨学各論 頭蓋 | |
| (第5回) | 骨学各論 頭蓋
関節、靭帯各論 | |
| (第6回) | 骨学各論 脊柱 | 関節靭帯各論 頭蓋 |
| (第7回) | 骨学各論 胸部 | |
| (第8回) | 関節靭帯各論 胸部 | 骨格各論上肢 |
| (第9回) | 骨格各論上肢 | 関節靭帯各論上肢 |
| (第10回) | 骨格各論下肢 | 関節靭帯各論下肢 |
| (第11回) | 関節靭帯各論下肢
骨学実習 | |
| (第12回) | 骨学実習 | |
| (第13回) | 骨学実習 | |
| (第14回) | 骨学実習(口頭試問) | |
| (第15回) | まとめ | |

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	解剖学Ⅱ
担当	川口 亮
単位数	2単位

評定方法

口頭試問、 期末試験

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

配布プリント、標準理学療法・作業療法専門基礎分野 解剖学 第5版

●注意点 その他

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

講義内容は、進行状況などで変更がある場合があります。

※講義日程は進行表で確認してください

科目名		解剖学Ⅲ	
履修時期	作業療法学科 夜間主1年生	単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	小林 しおり	科目副担当	0
目 標	総合	正常な生体の構造を理解することができる。	
	行動	①神経の名称が言える。②革新系の部位と構造・機能が説明できる。	
講 義 計 画	1回目	神経解剖ガイダンス・神経組織①	
	2回目	神経組織②	
	3回目	脊髄神経	
	4回目	脳神経	
	5回目	脳神経の診かた	
	6回目	脳の外観	
	7回目	脳の各論①	
	8回目	脳の各論②	
	9回目	脳の各論③	
	10回目	脳神経①	
	11回目	脳神経②	
	12回目	脳神経核③・伝導路①	
	13回目	伝導路②	
	14回目	髄膜・血管	
	15回目	まとめ	
教科書		標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 運動器系 第2版 医学書院 絵でみる脳と神経 第4版 医学書院	
授業方法		講義	
評定方法		筆記試験	
履修 アドバイス		国家試験にも出題頻度の高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。	

字科・字年	作業療法字科 夜間主 1年生
科目名	生理学Ⅰ
担当	木村 安貴
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

人体構造・機能における生命維持の働きを理解する

【SBOs】

<認知領域(知識)>

①血液循環 呼吸、消化・吸収、代謝、排泄、内分泌を学ぶ

<情意領域(習慣・態度)>

①医療専門職として、解剖と生理を融合する

<技能領域(技術)>

①各器官系統を有機的にゆすびつける

●学習方略(講義計画)

- (第1回) 構造からみた人体①
生理学とは、ホメオスタシスのしくみ
- (第2回) 構造からみた人体②
細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生成
- (第3回) 細胞膜の構造と機能
細胞膜のタンパク質、細胞膜の特性
- (第4回) 細胞の増殖と染色体
膜電位と細胞膜の興奮
- (第5回) 細胞の増殖と染色体
- (第6回) 体液の区分とその組成
- (第7回) 栄養の消化と吸収
口・咽頭・食道の構造と機能
- (第8回) 上部消化管の構造と機能①
- (第9回) 上部消化管の構造と機能②
- (第10回) 下部消化管の構造と機能
- (第11回) 膵臓・肝臓・胆のうの構造と機能
- (第12回) 呼吸器のはたらき
上気道、下気道
- (第13回) 呼吸
内呼吸と外呼吸
- (第14回) 呼吸器と呼吸運動
- (第15回) まとめ

年度・期	2023年度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	生理学Ⅰ
担当	木村 安貴
単位数	2単位

評価方法

提出課題(20%)、 期末試験(80%)

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

配布資料、専門基礎分野、解剖生理学(人体の構造と機能①) 医学書院

●注意点 その他

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

※講義日程は進行表で確認してください

講義内容は、進行状況などで変更がある場合があります。

科目名		生理学Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 夜間主1年生		単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	専門基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	木村安貴		科目副担当	
目標	総合	人体に必要な生理機能（血液の役割や体温調節、心臓の収縮のしくみ）について理解することができる。		
	行動	①血液の構造や種類について説明することができる。②心臓の役割や収縮の仕組み、収縮するまでの興奮伝導について説明することができる。		
講義計画	1回目	呼吸の病態生理		
	2回目	血液の組織・機能		
	3回目	酸素解離曲線		
	4回目	消化と吸収		
	5回目	貧血と赤血球増加症		
	6回目	血小板		
	7回目	血液の凝固		
	8回目	体温調節		
	9回目	体温調節		
	10回目	生体防衛		
	11回目	心臓弁の役割		
	12回目	興奮の電動		
	13回目	心臓の収縮・心周期		
	14回目	心音と心雑音		
	15回目	まとめ		
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 第11版 医学書院		
授業方法		講義		
評価方法		筆記試験		
履修アドバイス		国家試験にも出題頻度の高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

科目名		生理学Ⅲ		
履修時期	作業療法学科 夜間主1年生		単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	専門基礎分野		必選区分	必修
科目主担当	木村 安貴		科目副担当	0
目 標	総合	人体に必要な生理機能（血圧の調整や尿の生成から排泄のしくみ、内分泌の作用）について理解することができる。		
	行動	①血圧の調整の仕組みについて説明することができる。②内分泌と外分泌の違いを梨花氏でできる。③ホルモンの生体への作用について説明できる。		
講 義 計 画	1回目	血圧・補助ポンプ・脈波と脈拍		
	2回目	血圧調節		
	3回目	微小血管と血流		
	4回目	循環器の病態生理		
	5回目	腎臓の機能		
	6回目	ヘンレループ		
	7回目	排尿路・尿の輸送と貯蔵		
	8回目	体液の調節・酸塩基平衡		
	9回目	内臓機能の調節・自律神経		
	10回目	内分泌と外分泌		
	11回目	内分泌各論①		
	12回目	膵臓		
	13回目	内分泌各論②		
	14回目	ホルモン調節		
	15回目	まとめ		
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 第11版 医学書院		
授業方法		講義		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス		国家試験にも出題頻度の高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

年度・期	2023度 前期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	運動学 I
担当	澤田 祥子
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

生体力学の基礎を身につけ、運動器や神経系の構造と機能を理解する。
 正常な身体構造と運動機能との関連を理解する。
 理学療法や作業療法に重要な、身体構造と運動機能との異常を分析する方法を学ぶ。

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①身体運動と作用する力との基本的な関係を理解する。
- ②力が与える作用を、量的な表現である仕事やエネルギーなどの概念を用いて説明できる。
- ③関節運動を回転運動としてとらえ、その作用を説明できる。
- ④身体の運動を記述する基本的な方法を把握する
- ⑤運動器の基本的な構造、生理学的特性について理解する。
- ⑥運動学的視点から運動器を理解する。

<情意領域(習慣・態度)>

- ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。

<技能領域(技術)>

- ①人間の行為を運動学的視点で観察できる。
- ②基本的な運動器を触診できる。

●学習方略(講義計画)

4月18日	(第1回)	運動学の定義 運動学とは、運動学の歴史
4月18日	(第2回)	生体力学の基礎 肢位、面と軸、運動方向
5月9日	(第3回)	運動器の構造と機能① 骨の構造と機能・関節の構造と機能
5月9日	(第4回)	運動器の構造と機能② 腱および靭帯の構造と機能・骨格筋
5月16日	(第5回)	上肢帯の運動学と筋
5月16日	(第6回)	肩周囲の運動学と筋①
5月23日	(第7回)	肩周囲の運動学と筋②
5月23日	(第8回)	肩周囲の運動学と筋③
5月30日	(第9回)	肘関節・前腕の運動と筋①
5月30日	(第10回)	肘関節・前腕の運動と筋②
6月6日	(第11回)	手関節・手指の運動と筋①
6月6日	(第12回)	手関節・手指の運動と筋②
6月13日	(第13回)	手関節・手指の運動と筋③
6月13日	(第14回)	手関節・手指の運動と筋④
6月20日	(第15回)	まとめ

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	運動学 I
担当	澤田 様子
単位数	2単位

●評価

形成的評価:小テスト(予定)

総括的評価:期末テスト

●教育資源(テキスト、その他)

基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版

標準理学療法・作業療法学 解剖学第4版

その他:適宜資料、骨模型、PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床 小柳磨毅ほか 金原出版など

●注意点 その他

運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。

授業を受けるには、基礎医学(主に解剖学)の知識が必須です。毎回その再学習と予習が必要です。

授業は連続した講義の積み重ねです。毎回出席し学習しないと、理解できません。

科目名		運動学Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	金城 徳明	科目副担当	0
目 標	総合	①生体力学の基礎を身につけ、運動器や神経系の構造と機能を理解する。 ②正常な身体構造と運動機能との関連を理解する。 ③理学療法や作業療法に重要な、身体構造と運動機能との異常を分析する方法を学ぶ。	
	行動	<認知領域（知識）> ①身体運動と作用する力との基本的な関係を理解する。 ②身体の運動を記述する基本的な方法を把握する。 ③運動器の基本的な構造、生理学的特性について理解する。 ④運動学的視点から運動器を理解する。 <情意領域（習慣・態度）> ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。 ②教科書以外の資料も参考にしながら、各筋の特徴を覚える。 <技能領域（技術）> ①人間の行為を運動学的視点で観察できる。 ②基本的な運動器を触診できる。	
講義計画	第1回	下肢帯の運動学と筋	
	第2回	股関節の運動学と筋①	
	第3回	股関節の運動学と筋②	
	第4回	膝関節の運動と筋①	
	第5回	膝関節の運動と筋②	
	第6回	まとめ	
	第7回	足関節と足部の運動と筋①	
	第8回	足関節と足部の運動と筋②	
	第9回	体幹の運動学と筋①（頸部・胸部・腰部）	
	第10回	体幹の運動学と筋②（頸部・胸部・腰部）	
	第11回	体幹の運動学と筋③（頸部・胸部・腰部）	
	第12回	頭部・顔面の運動と筋	
	第13回	歩行と走行①（重心移動と体節回旋・下肢の角度変化・歩行時の上肢の運動）	
	第14回	歩行と走行②（歩行時のエネルギー代謝、小児、高齢者の歩行、歩行の神経機構、異常歩行）	
	第15回	まとめ	
教科書		①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版 【参考書】PT・OTのための運動学	
授業方法		講義・演習・グループワーク	
評定方法		・筆記試験・課題	
履修 アドバイス		運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。 授業を受けるには、基礎医学（主に解剖学）の知識が必須です。毎回その再学習と予習が必要です。授業は連続した講義の積み重ねです。毎回出席し学習しないと、理解できません。	

科目名		運動学Ⅲ	
履修時期		作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数 2単位／30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分 必修
科目主担当		西村 昭宣	科目副担当 0
目 標	総合	①人の運動分析項目を知り、様々な姿勢の重心変化について理解することができる。また、その運動の学習について、理論をもとに説明することができる。	
	行動	<認知領域（知識）> ①運動と動作の分析について理解できる。 ②姿勢について理解できる。 ③歩行と走行について理解できる。 ④運動学習について理解できる。 ⑤力が与える作用を、目的な表現である仕事やエネルギーなどの概念を用いて説明できる。⑥関節運動を回転運動としてとらえ、その作用を説明できる。 <情意領域（習慣・態度）> ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。 ②基本的な運動器を触診できる。 <技能領域（技術）> ①人間の行為を運動学的視点で観察できる。 ②基本的な運動器を触診できる。	
講 義 計 画	第1回	筋収縮・神経系（筋収縮の様態、運動単位、末梢神経・シナプス・中枢神経）	
	第2回	運動の中枢神経機構①（反射運動・脊髄反射・姿勢と立ち直り反射）	
	第3回	運動の中枢神経機構②（姿勢保持・随意運動）	
	第4回	姿勢①（姿勢とその制御、重心、立位の安定性、姿勢の記載と類型）	
	第5回	姿勢②（立位姿勢と異常について）	
	第6回	身体とてこ	
	第7回	起居動作・立ち上がり（動作分析）	
	第8回	体力と運動処方①（身体運動のエネルギー代謝）	
	第9回	体力と運動処方②（運動処方）	
	第10回	運動学習①（学習と記憶・運動機能とパフォーマンス）	
	第11回	運動学習②（運動学習の理論）	
	第12回	運動学習③（練習と訓練）	
	第13回	生体力学の基礎①（加速度・ベクトル・モーメント）	
	第14回	生体力学の基礎②（運動法則・てこ・骨と関節の運動）	
	第15回	まとめ	
教科書		①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版 【参考書】PT・OTのための運動学	
授業方法		講義・演習・グループワーク	
評定方法		・筆記試験・課題	
履修 アドバイス		運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。 授業を受けるには、基礎医学（主に解剖学）の知識が必須です。毎回その再学習と予習が必要です。授業は連続した講義の積み重ねです。毎回出席し学習しないと、理解できません。	

年度・期	2023度 前期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	人間発達学
担当	加藤 綾乃
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

作業療法介入の基礎となる、ヒトの生涯発達について概説できる

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①発達段階について説明できる
- ②発達理論を理解し、ヒト(対象者)の発達過程における問題を想像することができる
- ③乳幼児期における姿勢反射・反応および運動発達について説明できる
- ④乳幼児期における認知(感覚・知覚)・社会性(ADL・遊び等)の発達について説明できる
- ⑤各年齢における運動・認知・社会性の発達について説明できる
- ⑥発達領域における検査の目的を理解し、各検査道具の特徴を説明できる
- ⑦発達学で使用する専門用語を理解することができる

●学習方略(講義計画)

- | | | |
|-------|--------|---------------------|
| 4月15日 | (第1回) | オリエンテーション・発達概念 |
| 4月15日 | (第2回) | 発達理論 |
| 5月6日 | (第3回) | 姿勢反射・反応1 |
| 5月6日 | (第4回) | 姿勢反射・反応2 |
| 5月20日 | (第5回) | 姿勢反射・反応3／国家試験問題を解こう |
| 5月20日 | (第6回) | 運動発達1 |
| 6月3日 | (第7回) | 運動発達2 |
| 6月3日 | (第8回) | 運動発達3 |
| 6月17日 | (第9回) | 反応と6歳までの発達 |
| 6月17日 | (第10回) | 上肢機能の発達 |
| 7月1日 | (第11回) | 感覚・知覚・認知・社会性の発達 |
| 7月1日 | (第12回) | 日常生活活動(ADL)の発達 |
| 7月15日 | (第13回) | 発達検査 |
| 7月15日 | (第14回) | 発達検査 |
| 7月22日 | (第15回) | まとめ |

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	人間発達学
担当	加藤 綾乃
単位数	2単位

講義・グループワーク

小テスト60% 期末試験40%

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

イラストでわかる人間発達学

●注意点 その他

子どものリハビリテーションの基礎となりますので、きちんと習得できるよう、すべての講義を受けれるようにしましょう。グループワークでは積極的に参加し、内容をきちんと把握しましょう。

科目名		病理学概論	
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉 盛治	科目副担当	0
目 標	総合	病気のメカニズムを学ぶ。	
	行動	①病気の発生機序を説明できる。②病気の回復メカニズムを説明できる。③医療現場で留意すべき感染症への対策が説明できる。	
講義計画	第1回	病理学の領域	
	第2回	細胞と組織、その障害	
	第3回	再生と修復循環器障害 A	
	第4回	循環器障害 B (リンパ液)	
	第5回	炎症免疫	
	第6回	感染症代謝異常	
	第7回	老化と老年病新生児の病理先天異常	
	第8回	腫瘍	
	第9回	腫瘍(続き)	
	第10回	生命の危機	
	第11回	循環器・呼吸器、歯・口腔系	
	第12回	消化器系・内分泌系造血器系・腎・尿路系生殖系	
	第13回	乳腺、脳神経系運動器系	
	第14回	感覚器系	
	第15回	期末試験テスト	
教科書		資料配布	
授業方法		講義	
評定方法		期末試験	
履修アドバイス		0	

科目名		内科学	
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必修区分	必修
科目主担当	玉城佑一郎	科目副担当	仲里・平良・岡本
目 標	総合	主要な内科疾患の症状や発生機序、治療方法について説明できる。	
	行動（認知）	1. 解剖・生理学的な基礎知識を基に、疾患の主な症状や関連する症状について知ることができる。 2. 疾患の予後予測を知ることができる。 3. 主要な治療方法について知ることができる。	
講 義 計 画	第1回	第1章 内科学とは P3～/第2章 内科的診断と治療の実際 P6～	仲里Dr（名嘉村クリニック）
	第2回	第4章 循環器疾患① P55～97	〃
	第3回	第4章 循環器疾患② P55～97	名嘉村Dr（名嘉村クリニック）
	第4回	第3章 症候学 P38～54	〃
	第5回	第6章 消化管疾患 P142～172	平良Dr
	第6回	第7章 肝胆脾疾患 P174～200	〃
	第7回	第9章 代謝性疾患 P228～249	〃
	第8回	第11章 腎・泌尿器疾患 P270～293	〃
	第9回	第5章 呼吸器疾患① P102～137	玉城Dr（愛楽園）
	第10回	第5章 呼吸器疾患② P102～137	〃
	第11回	第8章 血液・造血器疾患 P201～226	岡本Dr（愛聖クリニック）
	第12回	第10章 内分泌疾患 P251～267	〃
	第13回	第12章 アレルギー疾患・膠原病 P297～319	〃
	第14回	第13章 感染症 P321～339	〃
	第15回	まとめ	
教科書		標準理学療法・作業療法学 内科学 第3版	
授業方法		講義	
評定方法		筆記試験	
履修アドバイス			

年度・期	令和5年度 後期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	リハビリテーション関連医学
担当	中村 克徳・他
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

医学的リハビリテーションの科学的な根拠を学ぶ

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①救急医療とリハビリテーションの関りを学ぶ
- ②各領域の薬物療法を学ぶ
- ③五大栄養素などについての学ぶ

<情意領域(習慣・態度)>

- ①救命救急医療の概論と基本的な救急処置について学ぶ
- ②健康の保持・増進や疾病の予防に栄養・食事がどのように関わっているか理解する
- ③が人体に対してどのように作用するか、薬が人体内でどのような挙動をするかなどを理解できる

<技能領域(技術)>

- ①救急蘇生法以外の手当(応急手当)を理解、修得する。
- ②急変時、救急処置の必要な患者さんの対応を医療従事者として理解、修得する
- ③薬物治療を患者ケアの視点から、薬の応用範囲、効果、正しい使用法や投与法などを理解し、適正な薬物の管理や取り扱い方法を学ぶ

●学習方略(講義計画)

(第1回)	救急医療とリハビリテーションの関り
(第2回)	BLS
(第3回)	救急医療と災害医療、DMAT
(第4回)	BLS
(第5回)	BLS
(第6回)	リハビリテーションと薬の関り
(第7回)	感染症・炎症の制御と薬物療法 薬を理解するための基礎知識
(第8回)	薬の作用・生体内での薬理作用
(第9回)	薬の概念と分類・使い方 精神疾患の薬物療法
(第10回)	疼痛制御と薬物療法 注意すべき頓用される薬物
(第11回)	健康と栄養 栄養素の働きと種類
(第12回)	栄養状態の評価・判定 食事摂取の基準・運動と栄養
(第13回)	ライフステージと栄養① 妊娠期～乳児期
(第14回)	ライフステージと栄養② 学童期～高齢期
(第15回)	臨床栄養

年度・期	令和5年度 後期
学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	リハビリテーション関連医学
担当	中村 克徳・他
単位数	2単位

●評価

筆記試験

●教育資源(テキスト、その他)

各回の領域の教科書

●注意点 その他

科目名		整形外科科学		
履修時期	作業療法学科 夜間主2年生		単位/時間数	2単位／30時間
科目区分	専門分野		必選区分	必修
科目主担当	安田 知子		科目副担当	
目 標	総合	リハビリテーションの対象である運動器疾患の代表として整形外科疾患を理解する。		
	行動	運動器疾患である整形外科科学の診断と治療について述べられるようになる。 それぞれの疾患の概要からリスク管理ができるようになる。		
講 義 計 画	1回目	整形外科科学総論/整形外科とは、整形外科科学とはなにか		
	2回目	総論 診断学診断とはなにか 問診・視診・触診・画像診断		
	3回目	総論 治療学保存療法と手術療法		
	4回目	疾患総論軟部組織損傷 1 軟部組織損傷(軟部組織、皮膚、筋・腱、血管)～熱傷		
	5回目	疾患総論 骨関節の損傷総論 骨折・捻挫・靱帯損傷・脱臼		
	6回目	疾患学Ⅰ 上肢肩関節		
	7回目	疾患学Ⅰ 上肢肘関節手関節手		
	8回目	疾患学Ⅰ 下肢股関節		
	9回目	疾患学Ⅱ 下肢 膝関節		
	10回目	疾患学Ⅰ 下肢足関節疾患		
	11回目	疾患学Ⅰ 脊椎・脊髄疾患：腰椎椎間板ヘルニア・脊髄損傷・スマホ首		
	12回目	疾患学Ⅱ：リウマチ/自己免疫疾患・リウマチ・悪性リウマチ・若年性突発性関節炎・感染症		
	13回目	疾患学Ⅱ：骨系統疾患～代謝性疾患・骨形成不全症・骨粗鬆症		
	14回目	疾患学Ⅱ：骨腫瘍・良性腫瘍 悪性腫瘍・末梢神経損傷・慢性疼痛疾患		
	15回目	疾患学Ⅱ：スポーツ医学・スポーツ整形外科と障がい者スポーツ 小児整形外科：骨端線障害と子供のスポーツ外傷		
教科書		整形外科科学テキスト[改訂第4版] 南江堂		
授業方法		講義		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス				

年度・期	2023年度 前期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	神経内科学
担当	金城 徳明
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

神経内科学全般の知識を習得する

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①神経診断学に必要な評価を説明出来る
- ②主要な神経内科疾患の病態を説明出来る
- ③神経疾患の発生機序、内容を説明出来る
- ④各疾患についての診断・病因・症状・検査・治療・予後について説明出来る

<情意領域(習慣・態度)>

- ①上記知識について他者と議論できる
- ②グループワークで自分の意見を言える

<技能領域(技術)>

- ①各疾患対象者の担当時に適切な対応が出来る
- ②ポイントを押さえたプレゼンテーションが出来る

●学習方略(講義計画)

4月7日	(第1回)	脳・神経解剖・生理学復習 神経診断学 神経兆候①(意識障害)
4月14日	(第2回)	神経徴候②(脳神経)
4月21日	(第3回)	神経徴候③(運動系、感覚系)
4月28日	(第4回)	脳血管障害① 脳梗塞
5月12日	(第5回)	脳血管障害② 脳出血
5月19日	(第6回)	脳血管障害③ 頭部外傷
5月26日	(第7回)	脳血管障害④ 高次脳機能(注意機能、記憶)
6月2日	(第8回)	脳血管障害⑤ 高次脳機能(失行・失認・失語)
6月9日	(第9回)	脳血管障害⑥ 高次脳機能(身体・空間無視、遂行・認知機能)
7月7日	(第10回)	脳画像の診かた(CT、MRIを中心に)
7月14日	(第11回)	変性症① パーキンソン病
7月21日	(第12回)	変性症② 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症
8月4日	(第13回)	脱髄疾患① 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症
8月18日	(第14回)	筋ジストロフィー
8月25日	(第15回)	まとめ

年度・期	2023年度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	神経内科学
担当	金城 徳明
単位数	2単位

●評価

期末試験:60%

講義内評定:40%(レポート課題15%、グループワーク10%、プレゼンテーション15%)で評価する

●教育資源(テキスト、その他)

①神経内科学テキスト 改訂第4版 南江堂

②ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂

③病気がみえる vol7 第2版 脳・神経 MEDIC MEDIA出版

●注意点 その他

範囲の広い神経内科学の分野を効率よく効果的に学習できるよう基礎的知識の復習を適時行うこと。

レポート課題や小テスト、グループワーク、プレゼンテーションも評定に含まれる。

脳血管疾患 レポート ⑭コマ目提出予定

年度	令和5年度 後期
学年	金武校 作業療法学科 夜間主 1年
科目名	精神医学
担当	梶原・大城・吉田・井上
単位数	2単位(30時間)

●学習目標

【GIO】

主要な精神疾患を知る。

【SBOs】

- ①主要な精神疾患の症状・発症契機について知ることができる。
- ②主要な精神疾患の一般的な治療方法について知ることができる。
- ③主要な精神疾患の予後が説明できる。
- ④各症状について説明することができる。

●学習方略(講義計画)

第1回	1章:総論(精神医学とは)	大城
第2回	3章:総論(精神機能とその異常)	大城
第3回	6章:精神科治療学	吉田
第4回	11.12章:気分障害(12章双極・11章うつ)	吉田
第5回	13～15章:神経症性障害	吉田
第6回	21章:パーソナリティ障害	吉田
第7回	5章:精神医学的診察と診断・7章:コンサルテーション・リエゾン	大城
第8回	8章:精神医療と社会	梶原
第9回	10章:統合失調症	梶原
第10回	9.22章:発達障害/精神遅滞/心理発達など	梶原
第11回	18章:物質関連商連・アルコール	梶原
第12回	23章:症状精神病	井上
第13回	19章:脳器質性精神障害(認知症など)	井上
第14回	20章:てんかん	井上
第15回	2.6.17章脳科学と精神医学/摂食障害/睡眠覚醒障害	井上

年度	令和5年度 後期
学年	金武校 作業療法学科 夜間主 1年
科目名	精神医学
担当	梶原・大城・吉田・井上
単位数	2単位(30時間)

●評価

・筆記試験

●教育資源(テキスト、その他)

標準精神医学 第8版

●注意点 その他

年度・期	2023年度度 後期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	小児科学
担当	知花 愛里
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

1. 小児疾患の症状、予後、治療方法を知る
2. 小児疾患全般を理解し、リハビリテーションへの応用へつなげることができる

●学習方略(講義計画)

9月15日	(第1回)	新生児の発達について
9月15日	(第2回)	発達について
9月29日	(第3回)	2～7か月の発達について
9月29日	(第4回)	2～7か月の発達について
10月6日	(第5回)	7～12か月健診について
10月6日	(第6回)	7～12か月健診について
10月13日	(第7回)	1歳～2歳児の発達について
10月13日	(第8回)	1歳～2歳児の発達について
10月27日	(第9回)	3～4歳健診について
10月27日	(第10回)	3～4歳健診について
11月10日	(第11回)	5～10歳児発達について
11月10日	(第12回)	5～10歳児発達について
11月24日	(第13回)	11～17才の発達
11月24日	(第14回)	11～17才の発達・折り紙ツリー
	(第15回)	まとめ

年度・期	2023年度度 後期
学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	小児科学
担当	知花 愛里
単位数	2単位
●評価 期末試験	
●教育資源(テキスト、その他) 標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 小児科学 第2版	
●注意点 その他	

年度・期	2023度 前期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	リハビリテーション概論 I
担当	吉田 恭子
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

自律した作業療法士になるために、臨床現場で使えるコミュニケーションを身につけ、リハビリテーションの必要な基礎知識と専門用語を理解することができる

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①リハビリテーションの歴史や、病期別の関わりについて理解する
- ②作業療法士に必要なリハビリテーション基礎知識、専門用語を理解する
- ③リハビリテーションに関連する法規および安全な医療について理解する

<情意領域(習慣・態度)>

- ①リハビリテーションマインドについて理解し、意識を持つ
- ②チーム医療の目的や意味を知り、多職種での関わりを意識できる
- ③作業療法士になることへの意識を高め、専門教科学習に前向きに取り組む意欲を高める

<技能領域(技術)>

- ①障害像とリハビリテーションについてイメージすることができる
- ②他職種の仕事内容を理解し、連携の重要性について理解する
- ③障害につながる疾患についての基礎知識を知り、病態像をイメージすることができる

●学習方略(講義計画)

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| (第1回) | リハビリテーションの定義と歴史・領域 |
| (第2回) | リハビリテーションマインドとチーム医療(多職種連携)
クリニカルパス |
| (第3回) | ADLの概念① |
| (第4回) | ADLの概念② |
| (第5回) | 法規・関連制度 |
| (第6回) | チーム医療/他職種理解(社会福祉士) SW 古御堂先生 |
| (第7回) | チーム医療/他職種理解(理学療法士) 未定 |
| (第8回) | チーム医療/他職種理解(柔道整復師) JT金城先生 |
| (第9回) | 医療安全・感染対策 |
| (第10回) | 障害分類について①
ICF解説 |
| (第11回) | 障害分類について②
ICF実践 グループ学習 |
| (第12回) | 臨床でのコミュニケーション
医療面接と基本テクニック |
| (第13回) | 障害につながる疾患の概要 |
| (第14回) | 障害につながる疾患 調べ学習 |
| (第15回) | 復習とまとめ |

年度・期	2023度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	リハビリテーション概論Ⅰ
担当	吉田 恭子
単位数	2単位

提出課題(20%)、 期末試験(80%)

●教育資源(テキスト、その他)

(参考図書)

リハビリテーション概論 改訂第4版 田島 文博 編著

リハビリテーション総論 編著 椿原彰夫 (診断と治療社)

PT/OT国家試験必修ポイント2023 専門基礎分野 臨床医学 医歯薬出版

日本作業療法士協会発行冊子

●注意点 その他

①配布資料はデータ化しクラスルームへ配布します。タブレットを毎回必ず持参すること。

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容・課題範囲などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

年度・期	2023度 後期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 1年生
科目名	リハビリテーション概論Ⅱ
担当	井上美和 他
単位数	2単位(30時間)

●学習目標

【GIO】

リハビリテーションの理念、社会保障、地域包括ケアシステムを理解し、説明できる。

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①リハビリテーションの理念(自立支援、就労支援など)を理解する
- ②社会保障、地域包括ケアシステムについて理解する
- ③地域における作業療法士の役割を理解し、関連職種の役割を把握する

<情意領域(習慣・態度)>

- ①地域における作業療法士の役割を説明できる
- ②多職種連携の重要性と作業療法が実践されている場について理解する
- ③作業療法士が果たすべき役割、多職種連携について状況に応じて選択することができる

<技能領域(技術)>

- ①地域における関係諸機関との調整と教育的役割を担う能力を培う。
- ②地域で求められる作業療法士として必要な資質を習得する。
- ③作業療法に関連する社会福祉制度やサービスを理解し、計画を立てる事ができる

●学習方略(講義計画)

9月28日(月) 2時限目	(第1回)	リハビリテーションの理念(自立支援、就労支援など)について①	井上
9月28日(月) 3時限目	(第2回)	リハビリテーションの理念(自立支援、就労支援など)について②	井上
10月5日(月) 2時限目	(第3回)	就労支援における作業療法士の役割①	井上
10月12日(月) 2時限目	(第4回)	就労支援における作業療法士の役割②	井上
10月19日(月) 2時限目	(第5回)	地域包括ケアシステムについて①	井上
10月26日(月) 2時限目	(第6回)	地域包括ケアシステムについて②	井上
11月2日(月) 2時限目	(第7回)	地域包括ケアシステムについて③	井上
11月9日(月) 2時限目	(第8回)	地域で求められる作業療法士として必要な資質について(住環境コーディネーター)①	具志
11月16日(月) 3時限目	(第9回)	地域で求められる作業療法士として必要な資質について(住環境コーディネーター)②	具志
11月30日(月) 2時限目	(第10回)	地域で求められる作業療法士として必要な資質について(住環境コーディネーター)③	具志
12月7日(月) 2時限目	(第11回)	地域で求められる作業療法士として必要な資質について(住環境コーディネーター)④	具志
12月14日(月) 2時限目	(第12回)	住み慣れた地域の現状を考える1(個人課題)	井上
12月21日(月) 2時限目	(第13回)	地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活躍の実際①	井上
12月28日(月) 2時限目	(第14回)	地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活躍の実際②	井上
1月 日(月)	(第15回)	まとめ	井上

●評価

① 筆記試験:80% ②授業態度:10% ③提出課題:10%

●教育資源(テキスト、その他)

標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第3版(医学書院)

配布資料:適宜

●注意点 その他

情報収集を行いグループワークに積極的に参加してください

住環境コーディネーターの資格取得に向けて各自でも取り組むこと。

科目名		作業療法概論		
履修時期		作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		上江洲 聖	科目副担当	0
目 標	総合	作業療法の概要を理解し説明する事が出来る。		
	行動	＜認知領域（知識）＞ ①「作業とは何か」を知り、作業療法の定義、原理、歴史を理解する ②リハビリテーションの関連性を理解し、諸外国、日本の作業療法の現状を理解する。 ③作業療法の理論を理解し、作業療法の対象者や領域を把握する。 ＜情意領域（習慣・態度）＞ ①作業療法士になるための教育体制を知り、求められる資質を理解する事で習慣化する ②多職種連携の重要性と作業療法のエビデンスを理解する ③作業療法に関連する医療福祉制度と管理運営について理解する		
講義計画	第1回	作業とは何か		
	第2回	作業療法の歴史(諸外国)		
	第3回	作業療法の歴史(日本)		
	第4回	世界のOT／日本のOT		
	第5回	作業療法の領域・他職種連携		
	第6回	EBMとOT		
	第7回	作業療法の過程		
	第8回	医療福祉制度		
	第9回	作業療法の実際①精神障害分野におけるOT		
	第10回	作業療法の実際②身体障害分野におけるOT		
	第11回	作業療法の実際③高齢期分野におけるOT		
	第12回	作業療法の理論		
	第13回	作業療法の実際④「作業」について		
	第14回	作業療法の管理運営、記録と報告		
	第15回	まとめ		
教科書		標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第3版（医学書院）		
授業方法		講義、グループワーク		
評定方法		① 筆記試験：80％②授業態度：10％③提出課題：10％		
履修 アドバイス				

科目名		基礎作業学Ⅰ		
履修時期		作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		吉田 恭子	科目副担当	0
目 標	総合	・作業療法における「作業」の重要性を理解する		
	行動	<認知領域（知識）> ・作業療法における「作業」の定義を説明する事ができる ひとの暮らしにおける「作業」の種類を理解することができる ・作業分析の概要（分析の意味、分析項目、分析方法）を理解することができる ・全領域（身体、精神、発達等）において、項目に沿った分析を列挙することができる ・作業種目が持つ特性（身体、精神、発達側面）を理解する <情意領域（習慣・態度）> ・各作業実践時に、分析シートに繋がる項目を見ながら実践できる。 ・円滑な対人交流を図りながら課題に取り組むことができる <技能領域（技術）> ・各領域の作業分析の違いを理解し「作業」を体験し分析する事ができる ・分析シートを用いて、各作業の特性とその理由について、分析内容を書き出すことができる。		
講義計画	第1回	「作業」とは / ひとと作業とは 作業・生活行為・分類など		
	第2回	分析項目について ベドレッティの分析項目		
	第3回	分析項目について ベドレッティの分析項目		
	第4回	作業・工程分析をやってみよう！		
	第5回	作業実践と分析アンデルセン手芸		
	第6回	アンデルセン手芸の作業・工程分析をやってみよう！		
	第7回	作業実践と分析裁縫（雑巾縫い）		
	第8回	裁縫（雑巾縫い）の作業・工程分析をやってみよう！		
	第9回	作業実践と分析e-sports（ぶよぶよ）		
	第10回	e-sports（ぶよぶよ）の作業・工程分析をやってみよう！		
	第11回	作業実践と分析 調理		
	第12回	調理の作業・工程分析をやってみよう！		
	第13回	作業実践と分析 散歩		
	第14回	散歩の作業・工程分析をやってみよう！		
	第15回	まとめ		
教科書		①作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 第3版 ②他必要資料を適宜配付		
授業方法		講義・演習・課題作成		
評定方法		各作業種目の作業分析課題提出状況60% 内容40%		
履修アドバイス		作業を知るには、体験することが最も重要です。積極的に取り組み、それぞれの作業特性を理解することに努めましょう。		

科目名		基礎作業学Ⅱ		
履修時期		作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		大城 圭	科目副担当	0
目 標	総合	・作業種目を包括的（行程や道具、運動機能や感覚・知覚機能、精神・認知機能、対人交流やリスク管理など）に分析することができる。また、作業種目の特性を理解し適応可能な対象疾患を列挙することができる。		
	行動	<認知領域（知識）>①全領域（身体、精神、発達等）において、項目に沿った分析を列挙することができる③疾患別、障害別の作業活動の有効性、禁忌事項を理解する①作業課題のリスク管理ができる③円滑な対人交流を図りながら課題に取り組むことができる <情意領域（習慣・態度）>②セラピストとして、安全管理、作業介入ができる③円滑な対人交流を図りながら課題に取り組むことができる <技能領域（技術）>①分析シートを用いて、各作業の特性とその理由について、分析内容を書き出すことができる。②分析種目の作業と、類似する性質をもつ作業を抽出することができる。③作業分析項目を書き出すことができる		
講義計画	第1回	オリエンテーション・集団活動		
	第2回	集団活動の作業分析（分析と類似する生活動作の検討）		
	第3回	手工芸（編み物、塗り絵、ビーズ）		
	第4回	手工芸（編み物、塗り絵、ビーズ）の作業分析（分析と類似する生活動作の検討）		
	第5回	オリエンテーション・革細工		
	第6回	革細工の作業分析（分析と類似する生活動作の検討）		
	第7回	木工（本棚作り）		
	第8回	木工（本棚作り）		
	第9回	木工（本棚作り）		
	第10回	木工（本棚作り）の作業分析（分析と治療適応用例の検討）		
	第11回	園芸		
	第12回	園芸の作業分析（分析と類似する生活動作の検討）		
	第13回	作業の治療適応用に関連する国試問題の解答・解説①		
	第14回	作業の治療適応用に関連する国試問題の解答・解説①		
	第15回	まとめ		
教科書		①作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 第3版 ②他必要資料を適宜配付		
授業方法		講義・演習・課題作成		
評定方法		各作業種目の作業分析課題提出状況60% 内容40%		
履修アドバイス		作業を治療的に応用するうえで必要な知識を得るための科目です。体験する作業と類似する生活動作やどのような疾患に治療適応が可能かを考えていきましょう。		

令和3年

学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	作業療法管理学
担当	上江洲 聖
単位数	2単位(30時間)

●学習目標

組織の役割・サービス提供としての役割を理解する
[GIO]
作業療法サービスを効率よく安全に提供するための管理(マネジメント)の視点を養うことを目的とする
[SBO]
組織の役割を理解する チーム医療の役割を理解する
各種制度を理解する 各種管理を理解する

●学習方略(講義計画)

9月13日	(第1回)	総論① オリエンテーション 講義の流れ、総論、検査の目的・意義・方法を理解する
9月27日	(第2回)	病院の分類と組織② 資料参照
10月4日	(第3回)	専門職とチームケア③ 資料参照
10月11日	(第4回)	専門職とは④ 報告会
10月18日	(第5回)	社会保障のしくみ⑤ 資料参照
10月25日	(第6回)	医療保険制度⑥ 資料参照
11月1日	(第7回)	介護保険制度⑦ 資料参照
11月8日	(第8回)	職業倫理⑧ 資料参考
11月15日	(第9回)	業務管理⑨ 資料参考
11月22日	(第10回)	情報管理⑩ 資料参考
11月29日	(第11回)	感染管理⑪ 資料参照
12月6日	(第12回)	教育管理⑫ 資料参照
12月13日	(第13回)	リスク管理⑬ 資料参考
12月20日	(第14回)	リスク管理⑭ 資料参照
12月23日	(第15回)	報告会 学院のリスク管理を確認

●評価

筆記試験(期末)、報告会(適時)、グループワーク、プレゼンテーションで評価する

●教育資源(参考書、テキスト、その他)

①作業療法管理学 中山書店
②リハビリテーション管理学 医学書院

●注意点 その他

様々な視点から全体を見つめ観察する能力を養う 報告会、グループワーク、プレゼンテーションも評定に含まれる

科目名		作業療法評価法Ⅰ	
履修時期		作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数 2単位／60時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分 必修
科目主担当		矢内 和香	科目副担当 0
目 標	総合	作業療法評価（身体領域・精神領域）の主要評価項目について説明し、理解することができる。また、形態測定・血圧測定においては、スムーズに計測することができる。	
	行動	作業療法評価（身体領域・精神領域）の主要評価項目について説明し、理解することができる。また、形態測定・血圧測定においては、スムーズに計測することができる。	
講 義 計 画	第1回	評価とは？作業療法の過程・情報収集段階・評価の目的と主眼①評価の手順・手段	
	第2回	実施上の留意点・評価のまとめと問題点・治療目標の設定②治療・指導・援助計画の立案	
	第3回	面接・観察法観察の種類～効果判定	
	第4回	面接について①自己紹介	
	第5回	面接について②作業療法の説明	
	第6回	面接について③インテーク面接	
	第7回	面接について④対象者にとっての作業	
	第8回	再評価・作業療法の効果	
	第9回	効果判定の方法・フォローアップ	
	第10回	意識の評価およびバイタルサインの測定	
	第11回	臨床検査の検査値の読み方・効果判定・治療への示唆	
	第12回	形態計測、身体機能の検査測定に共通する項目・携帯測定の意味	
	第13回	形態計測の基準点・指標・種類、形態計測実地	
	第14回	形態計測の基準点・指標・種類、形態計測実地	
	第15回	まとめ	
教科書		①標準作業療法学 作業療法評価学 第3版	
授業方法		講義、演習	
評定方法		①筆記試験:80% ②実技テスト（血圧測定・形態測定）：20%	
履修 アドバイス		①作業療法評価学Ⅰは、前期科目で得た知識も含まれますので学びなおし（復習）が必要です。Ipad、教科書をご持参下さい。②作業療法の対象疾患（身体領域、精神領域、小児領域、老年期等）すべてに共通する内容です。③触診のしやすい、また動きやすい服装で参加して下さい。	

科目名		作業療法評価法Ⅱ		
履修時期		作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		澤田 祥子	科目副担当	0
目 標	総合	各検査・測定の目的を理解し、かつ、それを説明できる。また、注意事項を守りながら、実施できる。		
	行動	＜認知領域 ～知識～＞ ①各検査の目的を知る。 ②各検査の種類を知り、実施手順を説明できる。 ③各検査に使用する道具、または必要な道具を答えることができる。 ④各検査実施時の注意事項を知る。 ＜情意領域 ～態度・習慣～＞ ①各検査で使用する道具の準備や、操作について知り、理解することができる。 ②各検査の注意事項を確認しながら、練習することができる。 ＜運動技能領域 ～技能～＞		
講 義 計 画	第1回	関節可動域測定①目的、方法の説明・肩甲帯・肩関節 実技練習		
	第2回	関節可動域測定②肘関節・手関節 実技練習		
	第3回	関節可動域測定③手指・頸部・体幹 実技練習		
	第4回	関節可動域測定④上肢のまとめ		
	第5回	関節可動域測定⑤ 股関節・膝関節・足部 実技練習		
	第6回	関節可動域測定⑤ 下肢まとめ		
	第7回	関節可動域測定⑥記録の方法・効果判定について		
	第8回	感覚検査①目的の説明・実施方法の説明		
	第9回	感覚検査②実技練習・記録練習		
	第10回	腱・表在・病的反射検査①目的の説明・実施方法の説明		
	第11回	腱・表在・病的反射検査②練習・記録練習		
	第12回	姿勢反射検査・リーチ①目的の説明・実施方法の説明		
	第13回	姿勢反射検査・リーチ②実技練習・記録練習		
	第14回	筋緊張検査①目的の説明・実施方法の説明		
	第15回	筋緊張検査② 実技練習・記録練習		
教科書		標準作業療法学第3版 作業療法評価学理学療法評価学 第5版		
授業方法		講義・実技		
評定方法		実技試験40%、筆記試験60%		
履修 アドバイス		①解剖・運動・生理学を基礎とし、身体の評価を行います。基礎の復習を行い、基本評価項目の習得に取り組んで下さい。 ②作業療法評価学Ⅱは、下記のような位置づけになっています。現在学んでいる科目もありますが、前期科目であやふやな知識については、改めて学びなおし（復習）し、授業に参加して下さい。必要に応じて、教科書を持参して下さい。		

科目名		作業療法評価法Ⅲ	
履修時期		作業療法学科 夜間主 1年生	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必修
科目主担当		宗像 暁美	0
目 標	総合	各評価の項目における必要な基礎知識をもって、評価が実施できる。	
	行動	<認知領域（知識）>徒手筋力検査・脳神経検査・ADL評価・協調性検査・上肢機能検査の意義と目的および実施方法について説明できる。<情意領域（週間・態度）>書く検査に必要な道具の扱いや物品の管理ができる。書く検査を安全にじっしできるように配慮できる。検査測定実施時に、模擬患者へのメモの確認やインフォームドコンセントが行える。<技能領域>各検査を実施できる。また道具や環境についても適切に扱うことができる。	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション・脳神経検査①	
	第2回	脳神経検査②	
	第3回	協調性検査①	
	第4回	協調性検査② ～実技練習～	
	第5回	徒手筋力検査① ～肩甲帯・上肢の実技練習～	
	第6回	徒手筋力検査② ～上肢の実技練習～	
	第7回	徒手筋力検査③ ～上肢・手の実技練習～	
	第8回	徒手筋力検査④～体幹の実技練習～	
	第9回	徒手筋力検査⑤ ～下肢の実技練習～	
	第10回	徒手筋力検査⑥ ～下肢の実技練習～	
	第11回	ADL評価① ～評価の目的～	
	第12回	ADL評価② ～ADL評価の種類～	
	第13回	ADL評価③ ～観察・記録練習～	
	第14回	上肢機能検査① ～意義・目的・種類～	
	第15回	上肢機能検査② ～実技練習～	
教科書		①標準作業療法学第3版 作業療法評価学②理学療法評価学 第5版③新・徒手筋力検査法 原著第1版	
授業方法		講義・実技	
評定方法		実技試験、筆記試験、中間テスト	
履修 アドバイス		①事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。②実技の復習を必ず行ってください（実技試験あり）。	

科目名		作業療法評価法Ⅳ		
履修時期		作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		宗像 暁美	科目副担当	0
目 標	総合	ADLの理念・概要を理解する。標準化されたADL評価法を理解し、評価を実施することができる。高次脳機能障害の基礎となる脳解剖やメカニズムを理解し、高次脳機能障害における観察・検査・測定が実施できる。		
	行動	<認知領域（知識）>①標準化されたADL評価法の概要や各項目を理解することができる。また精神領域におけるADL評価の意義や目的を説明できる。②片麻痺機能の神経生理学的な機序を理解し、検査の意義目的を説明できる。③高次脳昨日検査に必要な脳解剖や画像診断の見方を修得し、各症状の定義やメカニズムを理解することができる。<情意領域（習慣・態度）>①各検査の観察・検査・測定に必要な道具を準備することができる。②安全かつ検査・測定に適した環境を設定し実施することができる。<技能領域（技術）>①標準化されたADL評価法を実施することができる。また、精神領域のADLについても観察・記録が実施できる。②高次脳機能障害の各症状に適した観察・検査・測定を選択することができる。		
講義計画	第1回	ADLの評価について① ～1年時の復習～		
	第2回	ADL評価について② ～精神領域のADL評価～		
	第3回	ADL評価について③ ～精神領域のADL評価～		
	第4回	ADL評価について④ ～まとめ～		
	第5回	片麻痺上肢機能検査① ～意義・目的～		
	第6回	片麻痺上肢機能検査② ～実技練習～		
	第7回	片麻痺上肢機能検査③ ～実技練習～		
	第8回	高次脳機能障害の評価① ～高次脳機能障害とは～		
	第9回	高次脳機能障害② ～注意障害～		
	第10回	高次脳機能障害③ ～記憶障害～		
	第11回	高次脳機能障害④ ～失行～		
	第12回	高次脳機能障害⑤ ～失認～		
	第13回	高次脳機能障害⑥ ～空間無視・身体無視～		
	第14回	高次脳機能障害⑦ ～失語～		
	第15回	高次脳機能障害⑥ ～遂行機能障害・社会的行動障害・認知機能検査～		
教科書		①標準作業療法学第3版 作業療法評価学②理学療法評価学 第5版③新・徒手筋力検		
授業方法		講義・実技		
評定方法		実技試験、筆記試験、中間テスト		
履修アドバイス		①事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。②実技の復習を必ず行ってください（実技試験あり）。		

年度・期	2023年度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	身体作業治療学 I
担当	澤田 祥子
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

身体機能作業療法学の基礎知識を習得し、各治療原理を説明することができる

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①身体機能治療の目的を述べることができる。
- ②作業療法の過程を説明でき、トップダウンとボトムアップについて述べることができる。
- ③各回の主題について、必要な知識を説明することができる。

<情意領域(習慣・態度)>

- ①資料と教科書の主要ポイントに印を入れることができる
- ②各回の実技時に、ポイントをメモし、練習時に確認することができる。

<技能領域(技術)>

- ①対象者の感触を確認しながら、不快感を与えない接触方法を覚える。
- ②基礎知識をもとに、関節可動域訓練時のハンドリング位置を覚えることができる。
- ③各回の実技時に、ポイントを確認しながら、クラスメイトと実践できる。

●学習方略(講義計画)

4月15日	(第1回)	身体作業療法の目的 ～ 治療推論、診療報酬、治療方式について ～
4月15日	(第2回)	治療原理 ～ ボディメカニクス・理論・フィードバックとフィードフォワード～
5月13日	(第3回)	関節可動域訓練① 上肢の基本的なハンドリング
5月13日	(第4回)	関節可動域訓練② 下肢の基本的なハンドリング
5月27日	(第5回)	筋力増強訓練① 機能的な機能訓練方法
5月27日	(第6回)	筋力増強訓練② ADLにつなげた方法
6月10日	(第7回)	知覚再教育訓練
6月10日	(第8回)	物理療法とリスク管理① 臨床で関わりやすい物理療法の実施と効果
6月24日	(第9回)	物理療法とリスク管理② 臨床で関わりやすい物理療法の実施と効果
6月24日	(第10回)	切断と義肢① 切断部位・義肢総論
7月8日	(第11回)	切断と義肢② 義手各種
7月8日	(第12回)	切断と義肢③ チェックアウト、まとめ
7月15日	(第13回)	装具・スプリント① 各疾患の装具・splint・自助具(末梢神経障害、関節リウマチ、骨折など)
7月22日	(第14回)	装具・スプリント② 実技・作製
7月22日	(第15回)	まとめ

年度・期	2021年度 前期
学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	身体作業治療学 I
担当	澤田 祥子
単位数	2単位

●評価

筆記試験:100%

●教育資源(テキスト、その他)

標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版

作業療法学 ゴールドマスターテキスト 4 身体障害作業療法学 (参考文献)

●注意点 その他

①解剖学、生理学、運動学の基礎知識をベースに授業を進めていきます。不足している知識、あやふやな知識は、授業を通して、再度学び直しの時間を取るよう心がけてください。

②3回目の授業以降は動きやすい服装で参加してください。

③適宜確認testを実施していきます。期末の筆記試験に向けての対策資料として活用してください。

④装具療法・スプリントは、国家試験にも出題頻度が高いものです。基礎知識を固めて授業へ参加してください。

令和5年度

学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	身体作業治療学Ⅱ
担当	西村 昭宣
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

脳血管障害に対する作業療法を実施できるようになるために、この疾患の病態を理解し、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。

◎行動目標 SBOs

【知識 ー認知領域ー】

- ①脳血管障害の発生機序と臨床像の違いを説明できる。
- ②脳血管障害の病期に応じた作業療法の概要について述べることができる。

【習慣・態度 ー情意領域ー】

- ①各評価や治療に必要な道具の扱いや、物品管理を行える。
- ②各評価や治療を安全に行えるよう、配慮できる。
- ③各評価や治療を通して学んだことを他者と討議できる。

【技能 ー精神運動領域ー】

- ①脳血管障害の基本的な機能回復訓練手技を実施できる。
- ②脳血管障害の対象者のADL自立のために、適切な介助法が実施できる。

●学習方略(講義計画)

4月11日	(第1回) オリエンテーション、作業療法ガイドラインについて
4月11日	(第2回) 脳血管障害に対する作業療法(作業療法ガイドライン 脳卒中について)
4月18日	(第3回) 脳血管障害に対する作業療法(急性期)(亜急性期)
4月18日	(第4回) 脳血管障害に対する作業療法(亜急性期)(回復期)
4月25日	(第5回) 脳血管障害に対する作業療法(回復期)
4月25日	(第6回) 脳血管障害に対する作業療法(生活期)
5月2日	(第7回) 脳血管障害に対する作業療法 促通法・治療手技
5月2日	(第8回) 脳血管障害に対する作業療法 促通法・治療手技・介助方法

5月9日	(第9回) 筋緊張異常に対する作業療法
5月9日	(第10回) 協調運動障害に対する作業療法
5月16日	(第11回) 廃用症候群に対する作業療法
5月16日	(第12回) CVAに対する作業療法(作業療法計画立案discussion)
5月23日	(第13回) CVAに対する作業療法(作業療法計画立案discussion)
5月23日	(第14回) CVAに対する作業療法(作業療法計画立案presentation)
5月30日	(第15回) まとめ

●評価

授業態度

筆記試験

グループワーク・ディスカッション

●教育資源(テキスト、その他)

標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版

標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版

作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 身体障害作業療法学

配布資料、その他

●注意点 その他

※実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。

※事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。

※積極的なディスカッションや発表が行えるよう、調べ学習や振り返り(復習等)を行ってください。

科目名		身体作業治療学Ⅲ		
履修時期		作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		宗像 暁美	科目副担当	0
目 標	総合	変性・脱髄疾患、内部疾患、ターミナル等の評価から治療までの流れを把握し、治療計画立案について理解することができる		
	行動	①各疾患の病態及び予後について説明できる ②各疾患の評価について説明できる。 ③各疾患の作業療法目標、治療、対象者が地域生活・社会参加のための方法について知ることができる。 ④基本的な介入について、国家試験を題材とした対象者について考えることができる。		
講 義 計 画	第1回	神経筋疾患の作業療法① 多発性硬化症（MS）		
	第2回	神経筋疾患の作業療法② ギラン・バレー症候群（GBS）		
	第3回	神経筋疾患の作業療法③ 筋ジストロフィ（MD）		
	第4回	神経変性疾患の作業療法① パーキンソン病（PD）		
	第5回	神経変性疾患の作業療法② 脊髄小脳変性症（SCD）		
	第6回	神経変性疾患の作業療法③ 筋萎縮性側索硬化症（ALS）		
	第7回	内部疾患の作業療法① 心疾患 （心臓の機能解剖・心電図）		
	第8回	内部疾患の作業療法② 心疾患 （心疾患と作業療法1）		
	第9回	内部疾患の作業療法③ 心疾患 （心疾患と作業療法2）		
	第10回	内部疾患の作業療法④ 呼吸器疾患（呼吸器の解剖生理・疾患学）		
	第11回	内部疾患の作業療法⑤呼吸器疾患（作業療法・喀痰吸引）		
	第12回	内部疾患の作業療法⑥ 糖尿病		
	第13回	悪性腫瘍疾患の作業療法① OPE後対応		
	第14回	悪性腫瘍疾患の作業療法② ターミナルケア		
	第15回	まとめ		
教科書		標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版図作業療法学 ゴールド・マ		
授業方法		講義		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス		実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。 事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。		

科目名		身体作業治療学Ⅳ		
履修時期		作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		澤田 祥子	科目副担当	0
目 標	総合	履修した基礎医学知識を駆使して、脊髄損傷、RA、骨折、腱損傷などの病理病態を理解する。		
	行動	<認知領域（知識）> ①修復した各疾患特性を理解し説明できる。 ②修復した各疾患特性の時期に合わせたリスク管理、評価の説明や計画出来る。 <情意領域（習慣・態度）> ①期限内に与えられた課題を遂行し提出することが出来る。 <技能領域（技術）> ①修復した各疾患特性の時期に合わせたリスク管理、評価、目標設定、プログラムが計画出来る。		
講 義 計 画	第1回	脊髄損傷①オリエンテーション		
	第2回	脊髄損傷②概論		
	第3回	脊髄損傷③身体機能などの評価		
	第4回	脊髄損傷④急性期		
	第5回	脊髄損傷⑤回復期		
	第6回	脊髄損傷⑥社会復帰期・在宅復帰		
	第7回	脊髄損傷⑦まとめ		
	第8回	RA①病態・評価・治療		
	第9回	RA②自助具・環境調整		
	第10回	骨折①上肢		
	第11回	骨折②下肢・体幹		
	第12回	腱損傷・腱板損傷		
	第13回	末梢神経損傷①病態・評価		
	第14回	末梢神経損傷②治療		
	第15回	熱傷		
教科書		標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版作業療法学 ゴールド・マスターテキスト		
授業方法		講義		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス		実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。 事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。		

令和5年度

学年	2023年度 作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	精神科作業治療学 I
担当	吉田恭子
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①精神科領域における治療概要を理解できる
- ②回復段階における作業療法の目的が理解できる

<情意領域(習慣・態度)>

- ③作業療法の実践に際し、必要なポイントを学習し習得することができる
- ④急性期を含めた早期に行われる作業療法の実践内容が理解できる
- ⑤回復期に行われる作業療法の実践内容が理解できる
- ⑥維持期や終末期に行われる作業療法の実践内容が理解できる
- ⑦各回復段階で作業療法が行われる場が理解できる

<技能領域(技術)>

- ⑧各疾患の作業療法について説明・模擬実践できる

●学習方略(講義計画)

(第1回)	講義内容/シラバス説明 回復過程
(第2回)	治療過程 治療構造・治療的態度、関わり方・集団について
(第3回)	認知行動療法 精神科作業療法・精神科療養病棟の治療
(第4回)	疾患別作業療法①-1 統合失調症～急性期～
(第5回)	疾患別作業療法①-2 統合失調症～急性期～
(第6回)	疾患別作業療法①-3 統合失調症～回復期・維持期～
(第7回)	疾患別作業療法①-4 統合失調症～回復期・維持期～
(第8回)	疾患別作業療法① 気分障害
(第9回)	疾患別作業療法② てんかん
(第10回)	疾患別作業療法③ パーソナリティ障害
(第11回)	疾患別作業療法④ 広汎性発達障害・知的障害
(第12回)	疾患別作業療法⑤ 神経症性障害
(第13回)	疾患別作業療法⑥ 摂食障害
(第14回)	疾患別作業療法⑦ 物質依存性障害
(第15回)	まとめ

※ 日付は変更の可能性がありますので、進行表の確認を必ず行ってください

令和2年度

学年	作業療法学科 昼間主 2年生
科目名	精神科作業治療学 I
担当	吉田恭子
単位数	2単位

●評価

- ・期末試験 80%
- ・グループ課題取り組み・課題提出 20%

●教育資源(テキスト、その他)

【教科書】生活を支援する 精神障害作業療法学 第2版 急性期から地域実践まで

【参考文献】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎科目 精神医学

●注意点 その他

欠席・遅刻・早退は、十分な学習理解ができない最大の要因です。6回以上の欠席は期末試験の受験はみとめられません。(単位履修不可)やむを得ない理由で欠席した場合は、次回講義までに担当教員を訪ね資料や、講義内容・課題範囲などを確認し、わからない所は教員に質問するなど学習の遅れがないよう行動すること。

科目名		精神科作業治療学Ⅱ	
履修時期		作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数 2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分 必修
科目主担当		梶原 利彦	科目副担当 0
目 標	総合	精神科作業療法に関する概要や評価知識、技術を理解し、修得する	
	行動	①精神科分野における作業療法評価の目的を把握できる ②評価、面接、観察、情報収集を行える ③得られた情報から統合と解釈を行い、問題解決に向けたプログラム立案ができる	
講 義 計 画	第1回	講義内容説明沖縄県における精神科医療及び作業療法の歴史と現状	
	第2回	精神科作業療法の領域と十字する場・入院形態・診療報酬	
	第3回	回復段階における作業療法の目的（急性期・回復期・維持期）	
	第4回	精神科における作業療法評価①（目的、手段、方法）	
	第5回	精神科における作業療法評価②（情報収集について）	
	第6回	精神科における作業療法評価③ー 1（行動観察）	
	第7回	精神科における作業療法評価③ー 2（評価ツール）	
	第8回	精神科における作業療法評価④ー 1（能力評価）	
	第9回	精神科における作業療法評価④ー 2（観察記録からの能力評価）	
	第10回	精神科における作業療法評価⑤ー 1（統合と解釈、問題点の抽出）	
	第11回	精神科における作業療法評価⑤ー 2（統合と解釈、問題点の抽出 実践）	
	第12回	精神科における作業療法評価⑥ー 1（目標設定プログラムと立案）	
	第13回	精神科における作業療法評価⑥ー 2（プログラム選択方法）	
	第14回	事例検討（初期評価実践）	
	第15回	まとめ	
教科書		【教科書】 生活を支援する 精神障害作業療法学 第2版 急性期から地域実践まで【参考文献】	
授業方法		講義	
評定方法		筆記試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		発達障害作業治療学Ⅰ		
履修時期		作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		加藤 綾乃	科目副担当	0
目 標	総合	小児における作業療法の基礎介入を理解し、各発達障害の特性と作業療法アプローチについて説明できる。 作業療法士国家試験問題程度の問題を解くことができる。		
	行動	①正常発達の理解をもとに、小児の作業療法の役割は何かを理解する ②発達理論やモデルに基づいた、小児の作業療法の評価・治療・援助の流れを理解する ③遊びの治療的意味や発達にとっての遊びの重要性を理解する ④各発達障害の特性について理解する ⑤発達に応じた評価や治療を選択することができる		
講 義 計 画	第1回	小児の作業療法過程		
	第2回	発達の基礎		
	第3回	小テスト①		
	第4回	発達評価（国家試験問題の傾向を知る）		
	第5回	心身機能の発達過程（粗大運動）		
	第6回	心身機能の発達過程（粗大運動）		
	第7回	心身機能の発達過程（反射・反応）		
	第8回	心身機能の発達過程（反射・反応）		
	第9回	小テスト②		
	第10回	治療・援助の理論とモデル（感覚統合理論とアプローチ）		
	第11回	発達障害一広汎性発達障害1		
	第12回	発達障害一広汎性発達障害2		
	第13回	発達障害一注意欠如・多動症		
	第14回	発達障害一学習障害		
	第15回	総合まとめ		
教科書		イラストでわかる発達障害の作業療法		
授業方法		講義／グループワーク		
評定方法		筆記試験／課題		
履修 アドバイス		人間発達学の知識を基本ベースに各疾患の特徴や基礎介入などを学んでいきます。講義の前半は人間発達学に関する事項を行います。必要に応じて人間発達学で使用した教科書等を持参してください。		

科目名		発達障害作業治療学Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必修区分	必修
科目主担当	比嘉 昌吾	科目副担当	0
目 標	総合	発達障害領域の作業療法の概要を把握する	
	行動	各疾患の評価を理解し説明できる 各疾患の治療を理解し説明できる	
講 義 計 画	第1回	発達障害領域の作業療法評価①	
	第2回	発達障害領域の作業療法評価②	
	第3回	痙直型片麻痺について	
	第4回	痙直型両麻痺について	
	第5回	痙直型四肢麻痺について	
	第6回	アテトーゼ型脳性麻痺について	
	第7回	重症心身障害への作業療法	
	第8回	脳性麻痺児のADLにつながる遊び（実技）	
	第9回	知的障害に対するアプローチ	
	第10回	二分脊椎などの小児整形疾患について	
	第11回	筋ジストロフィーについて	
	第12回	小児リハビリテーションと支援制度	
	第13回	地域支援（保育等訪問事業などのケース紹介）について	
	第14回	障害児の保護者への子育て支援について	
	第15回	まとめ	
教科書		イラストでわかる発達障害の作業療法	
授業方法		講義/グループワーク	
評定方法		筆記試験/課題	
履修 アドバイス		0	

年度・期	令和5年度 後期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	作業療法技術論 I
担当	金城徳明・西村昭宣
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

PBLを通して、作業療法の一連の流れを体験することができる。

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①身体機能領域のCVAを主とした各疾患の特徴を説明できる。
- ②身体機能領域のCVAを主とした評価・治療について説明できる。
- ③身体機能領域の大腿骨頸部骨折を主とした各疾患の特徴を説明できる。
- ④身体機能領域の大腿骨頸部骨折を主とした評価・治療について説明できる。

<情意領域(習慣・態度)>

- ①グループワークを通して学んだことを他者と討議できる。
- ②グループワークを通して、自分の役割について遂行できる。またその状況を他者に伝えることができる。
- ③各回の授業課題に取り組むことができる。

<技能領域(技術)>

- ①学修内容をポートフォリオ(学修ノート)にまとめることができる。
- ②ケースに必要な作業療法評価(検査)が実施できる。
- ③ケースに立案した作業療法の治療について、模倣することができる。

●学習方略(講義計画)

9月21日	(第1回)	情報提示① ～一般情報・医学的情報から初期評価プラン立案～	宗像・澤田
9月21日	(第2回)	初期評価プランの立案	
9月26日	(第3回)	評価実技練習	金城・西村・鈴木
9月26日	(第4回)	評価実技練習	
9月28日	(第5回)	評価実技練習	宗像・澤田
9月28日	(第6回)	評価実技 ～スキルチェック～	
10月3日	(第7回)	情報提示② ～評価結果から治療目標および治療プラン立案～	金城・西村・鈴木
10月3日	(第8回)	治療プラン立案 ～評価結果から治療目標および治療プラン立案～	
10月5日	(第9回)	治療プラン立案	宗像・澤田
10月5日	(第10回)	治療プラン立案(実施)	
10月12日	(第11回)	情報提示① ～一般情報・医学的情報～	金城・西村・鈴木
10月12日	(第12回)	初期評価計画立案	
10月17日	(第13回)	評価実技練習	宗像・澤田
10月17日	(第14回)	情報提示② ～評価結果～	
10月19日	(第15回)	治療プラン立案	金城・西村・鈴木

年度・期	令和5年度 後期
学年	作業療法学科 夜間主 2年生
科目名	作業療法技術論 I
担当	金城徳明・西村昭宣
単位数	2単位

●評価

- ・ポートフォリオ
- ・授業時の取り組み状況

●教育資源(テキスト、その他)

身体機能障害領域に関する教科書全般。(必要に応じて各種テキストをご活用下さい)
文献など

●注意点 その他

- ・実習に行くにあたり、作業療法の流れや思考過程の経験を積む授業内容となっています。実習時には、一人で遂行できるようになることを最終目標にし、取り組んでください。
- ・各階の授業時にFBを受けること、また授業を進行する教員にも相談をしながら進めてください。
- ・実技練習の日は実習着で参加してください。

科目名		作業療法技術論Ⅱ		
履修時期		作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		吉田 恭子	科目副担当	梶原利彦/井上美和/大城圭
目 標	総合	・精神障害領域における作業療法の実践を理解し、実践できる ・内省的実践家として成長することができる		
	行動	①精神障害領域の統合失調症・認知症を主とした各疾患・回復段階（Sch）の特徴を説明でき、評価項目とその内容を説明できる。 ②実践を通して学んだことを他者と討議できる。 ③実践を通して作業療法評価(情報収集、各種面接) が実施でき面接に必要なコミュニケーションスキルを身に付ける。		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション精神科作業療法実践までの流れを説明		
	第2回	対象症例2疾患に必要な評価項目に関するグループワーク		
	第3回	PBL（統合失調症）多職種への情報収集に必要な内容・技術をまとめ発表		
	第4回	実技練習グループで多職種情報収集に関する練習を行う		
	第5回	PBL（統合失調症） インテーク面接に必要な情報を調べ発表		
	第6回	実技練習 インテーク面接		
	第7回	PBL(認知症) インテーク面接に必要な情報を調べ発表		
	第8回	実技練習 インテーク面接		
	第9回	PBL(認知症) 認知機能の検査（種類・適切なもの・方法など）について調べる		
	第10回	実技練習認知機能検査		
	第11回	実技練習		
	第12回	実技試験		
	第13回	実技練習		
	第14回	実技試験		
	第15回	まとめ／実技試験		
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版標準作業療法学 専門分野 作業療法評		
授業方法		講義		
評定方法		・実技試験（12～15回目実施）・講義終了後のリフレクションシート作成・最終の課題提出（ポート		
履修 アドバイス		※各自が真剣に取り組んだ分だけ、成長します ※実習や臨床に影響する科目ですので、積極的に取り組んで下さい		

科目名		作業療法技術論Ⅲ		
履修時期		作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		西村 昭宣	科目副担当	久藍/吉田恭子/大城圭/宗像暁美/金城徳
目 標	総合	精神障がい領域および身体障がい領域における生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)を活用した作業療法実践にむけたプロセスを理解し、マネジメントシート・レジюме作成できる		
	行動	①MTDLPの概要を理解し、各シートの使用方法について理解し、作成する ②レジюме作成(考察)が専門用語を用い作成できる ③ICFの分類について知ることができる		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーションMTDLP復習		
	第2回	症例確認(技術論ⅠのCVA症例) MTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成		
	第3回	精神科領域オリエンテーション		
	第4回	事例検討(担当事例は裏面参照) 事例の追加情報配布演習:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成		
	第5回	症例検討MTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成		
	第6回	症例検討MTDLP:生活行為工程分析作成		
	第7回	グループワークMTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成		
	第8回	グループワークMTDLP:生活行為工程分析作成		
	第9回	症例検討MTDLPプランシート作成		
	第10回	症例検討MTDLPプランシート作成		
	第11回	グループワーク①MTDLP:プラン演習シート・マネジメントシート作成※プログラム立案(集団・個別)		
	第12回	グループワーク①MTDLP:プラン演習シート・マネジメントシート作成※プログラム立案(集団・個別)		
	第13回	症例検討レジюме作成		
	第14回	症例検討レジюме作成		
	第15回	演習レジюме作成発表		
教科書		作業療法ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 2版標準作業療法学 専門分野 作業療法		
授業方法		講義、演習、グループワーク		
評定方法		授業態度・課題提出・MTDLPマネジメントシート(グループ課題)・レジюме A3(個人課題)		
履修 アドバイス		※各自が真剣に取り組んだ分だけ、成長します ※実習や臨床に影響する科目ですので、積極的に取り組んで下さい		

年度・期	2023度 後期
学科・学年	作業療法学科夜間主 3年生
科目名	作業療法技術論Ⅳ
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

国家試験に合格できる知識を身につける

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①各講義のテーマに関連する基礎知識を知ることができる
- ②各講義のテーマに関連する臨床医学知識を知ることができる
- ③各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる

<情意領域(習慣・態度)>

- ①講義時のグループワークにおいて、メンバーと協力して調べることができる
- ②調べたものをアウトプットし、メンバーに共有することができる

<技能領域(技術)>

- ①学修した範囲を線を引く、また付箋紙などで自己学修項目として残すことができる
- ②検索スキルを身につける

●学習方略(講義計画)

(第1回)	井上	共通	精神領域(認知症)
(第2回)	金城	共通	運動学
(第3回)	金城	共通	運動学
(第4回)	金城	共通	中枢神経障害(高次脳機能障害)
(第5回)	井上	共通	精神(てんかん他)
(第6回)	澤田	専門	脊損・装具
(第7回)	澤田	専門	運動学
(第8回)	矢内	専門	脳血管障害・嚥下
(第9回)	天久	共通	生理学(消化器系)
(第10回)	吉田	共通	精神(気分障害)
(第11回)	矢内	専門	膠原病
(第12回)	井上	専門	精神(物質依存)
(第13回)	梶原	専門	精神(統合失調症)
(第14回)	澤田	専門	末梢神経障害
(第15回)	矢内	専門	ADL評価

年度・期	2023度 後期
学年	作業療法学科夜間主 3年生
科目名	作業療法技術論Ⅳ
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●評価

筆記試験 : 100%

●教育資源(テキスト、その他)

1・2年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など

●注意点 その他

- ①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。
- ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。

年度・期	2023度 後期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 3年生
科目名	作業療法技術論Ⅴ
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

国家試験に合格できる知識を身につける

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①各講義のテーマに関連する基礎知識を知ることができる
- ②各講義のテーマに関連する臨床医学知識を知ることができる
- ③各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる

<情意領域(習慣・態度)>

- ①講義時のグループワークにおいて、メンバーと協力して調べることができる
- ②調べたものをアウトプットし、メンバーに共有することができる

<技能領域(技術)>

- ①学修した範囲を線を引く、また付箋紙などで自己学修項目として残すことができる
- ②検索スキルを身につける

●学習方略(講義計画)

(第1回)	加藤	共通	中枢神経
(第2回)	梶原	共通	統合失調症
(第3回)	安田	共通	整形外科学
(第4回)	安田	共通	整形外科学
(第5回)	加藤	共通	末梢神経
(第6回)	澤田	専門	切断・義肢
(第7回)	井上	専門	認知症
(第8回)	金城	共通	生理学(循環器系)
(第9回)	金城	専門	循環器系
(第10回)	梶原	専門	自閉・ADHD
(第11回)	西村	専門	感覚・高次脳機能評価
(第12回)	西村	専門	感覚・高次脳機能評価
(第13回)	吉田	共通	精神(神経症)
(第14回)	矢内	OT専門	各種保険・PTOT法
(第15回)	吉田	専門	神経症

年度・期	2023度 後期
学年	作業療法学科 夜間主 3年生
科目名	作業療法技術論Ⅴ
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●評価

筆記試験 : 100%

●教育資源(テキスト、その他)

1・2年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など

●注意点 その他

- ①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。
- ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。

年度・期	2023度 後期
学科・学年	作業療法学科 夜間主 3年生
科目名	作業療法技術論VI
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●学習目標

【GIO】

国家試験に合格できる知識を身につける

【SBOs】

<認知領域(知識)>

- ①各講義のテーマに関連する基礎知識を知ることができる
- ②各講義のテーマに関連する臨床医学知識を知ることができる
- ③各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる

<情意領域(習慣・態度)>

- ①講義時のグループワークにおいて、メンバーと協力して調べることができる
- ②調べたものをアウトプットし、メンバーに共有することができる

<技能領域(技術)>

- ①学修した範囲を線を引く、また付箋紙などで自己学修項目として残すことができる
- ②検索スキルを身につける

●学習方略(講義計画)

(第1回)	大城	共通	精神医学総論
(第2回)	天久	共通	生理学(泌尿器)
(第3回)	天久	共通	生理学(循環器)
(第4回)	吉田	共通	防衛機制等
(第5回)	大城	共通	精神医学評価
(第6回)	澤田	共通	解剖学
(第7回)	西村	共通	生理学(呼吸器)
(第8回)	梶原	共通	精神(アルコール依存症)
(第9回)	西村	専門	生理学(呼吸器)
(第10回)	吉田	専門	気分障害
(第11回)	加藤	共通	人間発達学
(第12回)	澤田	専門	RA・骨折
(第13回)	西村	専門	脳性麻痺
(第14回)	加藤	専門	発達OT
(第15回)	矢内	専門	老年期・内科疾患

年度・期	2023度 後期
学年	作業療法学科 夜間主 3年生
科目名	作業療法技術論Ⅵ
担当	作業療法学科 全教員
単位数	2単位

●評価

筆記試験 : 100%

●教育資源(テキスト、その他)

1・2年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など

●注意点 その他

- ①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。
- ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。

科目名		地域作業療法学Ⅰ	
履修時期	作業療学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位／60時間
科目区分	専門分野	必修区分	必修
科目主担当	矢内 和香	科目副担当	井上 美和
目 標	総合	地域作業療法及び高齢期作業療法の実際について説明できる。	
	行動	<認知領域（知識）> ①老年期障害の一般疾患特性について説明できる②病因、症候について説明できる③診断、評価、治療について説明できる④認知症の症候と作業療法の実際について説明できる⑤身体障害領域における法律や地域支援について説明できる <情意領域（習慣・態度）> ①高齢者の心身の特徴、リスクについて説明できる②認知症の特徴を踏まえた対応の仕方について挙げることができる <技能領域（技術）> ①高齢期の作業療法の評価、治療介入方法について説明、実施ができる②各疾患に応じた地域支援を選択しプログラムを検討することができる	
講義計画	第1回	高齢者を取りまく環境や心身面の特徴について	
	第2回	加齢に伴う生理的機能・運動機能の変化	
	第3回	老年期障害について	
	第4回	老年期にみられる疾患と廃用症候群について	
	第5回	老年期作業療法評価・機能訓練について	
	第6回	社会福祉関連	
	第7回	障害を持つ人への支援制度について	
	第8回	障害を持つ人への支援制度について、まとめ	
	第9回	認知症の症候学①（診断/MCI）	
	第10回	認知症の症候学②(4つの主な認知症)	
	第11回	認知症の症候学③（薬物療法Ⅰ）	
	第12回	認知症の症状	
	第13回	認知症の理解（評価・目標）	
	第14回	認知症の作業療法の実際①	
	第15回	認知症の作業療法の実際②、 まとめ	
教科書		1.事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 日本作業療法士協会（著） 医歯薬 2.標準作業療法学	
授業方法		講義、演習、グループワーク	
評定方法		・単位認定試験（筆記：期末試験95、成果物：まとめ資料修正・復習5%）・出席状況、授業態度	
履修アドバイス		① 配布資料をipad内のクラスルームに添付しますので毎回必ず持参してください。 ② タッチペンなどの周辺機器を準備してください。 ③10回目、15回目は「まとめ」をします。配布資料をすべて持参してください。 ④講義へは適切な身なり※1積極的に参加してください。 ※1室内での帽子は外してください(理由がある場合は申し出ること)など。	

科目名		地域作業療法学Ⅱ	
履修時期	作業療学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必修区分	必修
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	吉田恭子
目 標	総合	地域リハビリテーションの理念や現状を学び、作業療法士の役割を理解する。	
	行動	①地域社会で生活するための環境要因を列挙で社会保障制度などを理解する ②各疾患に併せた地域支援・作業療法の役割を列挙し理解する。 ③生活行為向上マネジメントの概要や考え方について学習し、模擬患者を通して演習シートを用いマネジメントができる	
講義計画	第1回	身体障害作業療法における地域支援	
	第2回	生活行為向上マネジメントについて①	
	第3回	生活行為向上マネジメントについて②	
	第4回	生活行為向上マネジメントについて③	
	第5回	生活行為向上マネジメントについて④	
	第6回	生活行為向上マネジメントについて⑤	
	第7回	生活行為向上マネジメントについて⑥	
	第8回	生活行為向上マネジメントについて⑦	
	第9回	生活行為向上マネジメントについて⑧	
	第10回	生活行為向上マネジメントについて⑨	
	第11回	身体領域・生活行為向上マネジメントのまとめ	
	第12回	社会情勢の変化と法改正② 精神障害領域	
	第13回	精神科作業療法における地域作業療法①	
	第14回	精神科作業療法における地域作業療法②	
	第15回	精神科作業療法における地域作業療法③	
教科書		その他参考図書：①社会福祉概論 中央法規 ②事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 日本作業	
授業方法		講義	
評定方法		・筆記試験（期末試験90%）， ・まとめ資料修正・復習（10%） ・出席状況，授業態度	
履修アドバイス		① 症例に関しては個人情報に留意し，情報の取り扱いに気をつけること ② 15回目は，今まで配布した資料をすべて持参すること。	

科目名		実習Ⅰ（見学実習）		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生		単位/時間数	2単位／90時間
科目区分	専門分野		必選区分	必修
科目主担当	吉田 恭子		科目副担当	梶原 利彦
目 標	総合			
	行動			
講 義 計 画		①10日間の学外実習を行う		
		②指導者の下、臨床現場の作業療法の流れを体験する		
		③実施要項を熟読すること		
		④指定された課題について成果物を学院に提出すること		
		⑤思いやりと敬意の念を持ち実習に臨むこと		
		⑥疑問や問題が生じたときは、指導者に相談すること		
		⑦必要に応じて報告、連絡すること		
		⑧学外実習期間が終了した後は、学内にて課題に取り組む		
教科書				
授業方法		学外実習 学内課題		
評定方法		実習・課題		
履修 アドバイス		0		

科目名		実習Ⅱ（地域実習）		
履修時期		作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	1単位／45時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		西村 昭宣	科目副担当	宗像 曉美
目 標	総合			
	行動			
講 義 計 画		①5日間の学外実習を行う		
		②指導者の下、臨床現場の作業療法の流れを体験する		
		③実施要項を熟読すること		
		④指定された課題について成果物を学院に提出すること		
		⑤思いやりと敬意の念を持ち実習に臨むこと		
		⑥疑問や問題が生じたときは、指導者に相談すること		
		⑦必要に応じて報告、連絡すること		
		⑧学外実習期間が終了した後は、学内にて課題に取り組む		
教科書				
授業方法		学外実習 学内課題		
評定方法		実習・課題		
履修 アドバイス		0		

科目名		実習Ⅲ（評価実習）		
履修時期		作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位／90時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		西村 昭宣	科目副担当	宗像 曉美
目 標	総合			
	行動			
講 義 計 画		①10日間の学外実習を行う		
		②指導者の下、臨床現場の作業療法の流れを体験する		
		③実施要項を熟読すること		
		④指定された課題について成果物を学院に提出すること		
		⑤思いやりと敬意の念を持ち実習に臨むこと		
		⑥疑問や問題が生じたときは、指導者に相談すること		
		⑦必要に応じて報告、連絡すること		
		⑧学外実習期間が終了した後は、学内にて課題に取り組む		
教科書				
授業方法		学外実習 学内課題		
評定方法		実習・課題		
履修 アドバイス		0		

科目名		実習Ⅳ（総合実習）	
履修時期	作業療法学科 夜間主 3年生	単位/時間数	10単位／450
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	井上 美和	科目副担当	澤田 祥子
目 標	総合	①指導者の元で対象者に必要な評価技能を身につける ②対象者の改善課題の整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける ③プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける ④プログラム効果を判定する能力を身につける	
	行動	実習指導者をモデルとし、その臨床技能の真似ができ汎化できること、および実習指導者の臨床家庭を理解し解説できる	
講 義 計 画		①50日間の学外実習を行う	
		②指導者の下、臨床現場の作業療法の流れを体験する	
		③実施要項を熟読すること	
		④指定された課題について成果物を学院に提出すること	
		⑤思いやりと敬意の念を持ち実習に臨むこと	
		⑥疑問や問題が生じたときは、指導者に相談すること	
		⑦必要に応じて報告、連絡すること	
		⑧学外実習期間が終了した後は、学内にて課題に取り組む	
	教科書		
授業方法	学外実習 学内課題		
評定方法	実習・課題		
履修 アドバイス	0		